

平成 25 年 3 月

授業の手引き

高等学校 地理歴史科・公民科

愛知県総合教育センター



はじめに

平成25年4月より、高等学校地理歴史科・公民科においても、新学習指導要領に基づく授業が学年進行で始まります。新学習指導要領は、「生きる力」の育成という理念を前回のものから引き継いでいますが、昨今では「生きる力」の意味を「社会を生き抜く力」として捉え、その育成こそが急務であるとの論調をよく目にするようになりました。先を見通すことの難しい時代にあつて、「生涯を通じ不断に主体的に学び考える力」や「予想外の事態を自らの力で乗り越えることのできる力」、そして「グローバル化に対応し活力ある社会づくりに貢献することのできる力」などの育成が求められていると言えます。学校教育において育成する力が、真に社会で通用するものか否かが改めて問われているのです。地理歴史科・公民科が「社会」を教える教科である以上、我々はこの要請と真摯に向き合わざるを得ません。少なくとも我々は、高等学校での学びを在学中の3年間だけで捉えるのではなく、中学校までに取り組まれた生涯学習のための基盤づくりを引き継ぎ、3年後にはその基盤をより確固たるものにさせるのだという自覚をもつ必要があります。

この手引きは、教科指導の充実に関する研究委員が、「どうしたら高等学校卒業後にも通用する力を授業で身に付けさせることができるのか」について、今までの教職経験を基に授業内容や授業方法を検討し、「授業の手引き（高等学校地理歴史科・公民科）」（平成16年3月）を改訂する形でまとめたものです。ここに全てのことが示されているというわけではありませんが、授業を行うに当たって参考になることも多いと思います。ぜひこの手引きを基に自分なりの工夫を加え、また、互いに授業実践の交流をして教科の指導力を高め、愛知県の地理歴史科・公民科教育を一步でも前進させていただきたいと願っています。

平成25年3月31日

教科指導の充実に関する研究（地理歴史・公民）委員

愛知県立津島東高等学校教諭 加藤 博紀

愛知県立東海南高等学校教諭 杉本 明隆

愛知県立阿久比高等学校教諭 筒井 誠

愛知県立豊田北高等学校教諭 山崎 理恵

愛知県立豊田高等学校教諭 平田 孝夫

愛知県立岡崎東高等学校教諭 浅岡 宏司

愛知県立刈谷北高等学校教諭 花見 英次

愛知県立安城南高等学校教諭 鈴木 啓仁

愛知県総合教育センター研究指導主事 坪井 佳代

愛知県総合教育センター研究指導主事 杉浦 義之

授業の手引き（高等学校地理歴史科・公民科）

平成25年度版

目次

はじめに

I 地理歴史科・公民科の授業が目指すもの

- I-1 授業改善の方向性 1
- I-2 各教科・科目で身に付けさせたい力 2

II 授業プランニング

- II-1 年間指導計画の作成 5
- II-2 学習指導案の作成 7

III 思考力等の育成に向けた授業づくりの視点

- III-1 言語活動の充実 10
- III-2 主題学習・課題探究学習とは 11
- － ワークシートについて － 13
- III-3 日常の授業における思考力等の育成 14
- － N I Eについて － 16
- － 知識・技能の確実な習得のために － 17
- III-4 授業実践例 18

IV 評価について

- IV-1 観点別評価の在り方 34
- IV-2 評価問題例 36

V 参考文献

..... 39

I 地理歴史科・公民科の授業が目指すもの

I-1 授業改善の方向性

高等学校地理歴史科・公民科の授業が、知識の詰め込みに偏っていると指摘されて久しい。学校教育法が一部改正され、学力観が明確にされる中で、高等学校の授業では、在学中に通用するだけにとどまらない、生涯にわたって学習するための基盤をつくることが求められている。

(1) 地理歴史科・公民科授業の課題

高等学校地理歴史科・公民科の授業に対しては、かねてより「知識詰め込み・暗記中心型の教育」との批判がある。改めて何が問題であるかを挙げれば、次の三点に集約されるであろう。

- ◇ 板書を写し、教師による説明を聞くだけの受け身の授業になりがちである。
- ◇ 毎授業のねらいが明確にされず、したがって「導入」と「まとめ」のない授業となっている。
- ◇ 学力を評価する機会が定期考査に偏っている。また、定期考査の内容は、知識の有無に関する問いに偏っている。すなわち用語等をどれだけ多く暗記したかが試されることになる。

結果として、生徒には試験のための学習を強いることになる。中学時代の学習や、卒業後の学びとの接続に関する意識は希薄であると言わざるを得ない。

(2) 学力の三要素

平成19年に一部改正された学校教育法では、学力の重要な要素として次の三点が示された。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ③ 主体的に学習に取り組む態度

上記の学力観を踏まえ、①の確実な習得と、②の育成とのバランスの重視を基本方針の一つとして、学習指導要領が改訂された。そして、学習指導要領では、教育課程の編成及び実施に当たっての配慮事項として、②を育成する観点に立った言語活動の充実がうたわれた。高等学校地理歴史科・公民科の授業において、言語活動を通じた②の育成が急務であることは言うまでもない。

(3) 目標達成志向の授業へ

平成21年に告示された高等学校学習指導要領地理歴史及び公民の各科目では、「2 内容」の最後の大項目または中項目が学習のまとめとしての意味をもち、授業において探究する活動を行うことが示された。大まかにまとめるならば、探究する活動とは、生徒自身が主題や課題を設定し、それまでの学習で習得した知識や技能を有効に活用して主体的な考察を行い、言語活動を手段として考察した結果を表現することである。それは、授業の集大成として、1年間ないし2年間で身に付いた上記(2)の②を披露する場でもある。そして、各科目では、探究する活動を通して、更に歴史的思考力や地理的な見方及び考え方を身に付けさせることを目標としている。

探究とは、学びの全過程を生徒が主体的に行うことであり、この手法を会得することが、学び方を学ぶ上での目標となる。一方、各科目で培うべき力等を身に付けさせることも授業の目標である。授業改善を志向することとは、この二つの目標を達成するために、日々の授業をいかに組み立てるかを考えることに他ならない。どこに着目させて知識や技能を活用させ、主体的に考察させる場面を設けるか、また、思考力や見方をどのように高めていくか等、授業を構造化し、段階的・継続的な指導により目標達成までの道のりを描くのである。頭の中で「分かる」だけにとどまらない、考察・活用・表現等の能力を徐々に身に付ける授業、すなわち「できる」授業を目指すことで「暗記中心」の授業との決別を図るのである。

【参考】 地理歴史科・公民科の目標、評価の観点及びその趣旨

地理歴史科の教科目標		我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。
及びその趣旨 地理歴史科の評価の観点	関心・意欲・態度	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。
	思考・判断・表現	歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	資料活用 の技能	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
	知識・理解	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
公民科の教科目標		広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。
の趣旨 公民科の評価の観点及びその	関心・意欲・態度	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。
	思考・判断・表現	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	資料活用 の技能	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
	知識・理解	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

I-2 各教科・科目で身に付けさせたい力

授業においては、地理歴史・公民各科目の基礎的・基本的な知識や、概念・技能の確実な習得を目指すとともに、科目に応じた「見方や考え方」を養うことが必要である。
各科目で身に付けさせたい力等を見据え、その育成に資する授業づくりを心がけたい。

(1) 歴史

新しい学習指導要領では、歴史の授業を通じて身に付けさせるべき資質・能力を以下のように捉えている。

① 歴史学習の基本的技能（『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』世界史Bより）

- ◇ 歴史的事象の前後関係を把握し、因果関係を明らかにすること。
- ◇ 歴史的事象の空間的関係を把握し、その時代の世界の特質や諸地域世界相互のかかわりを明らかにすること。
- ◇ その時代の資料を取り上げて、内容、意図、ねらいなどについて考察し、生徒自らが歴史像を形成していくこと。

② 身に付けさせることをねらいとする力（『同解説 地理歴史編』日本史Bより）

- ◇ 資料から導き出された歴史的事象の、歴史の展開における意味や意義を解釈する力
- ◇ 歴史的手法を通じて得られた複数の解釈について、それぞれの資料的な根拠や解釈上の論理を踏まえて考えを説明する力

一方、歴史の授業で身に付けさせたい力等を考える上で参考になるものとしては、アメリカで1994年に発表された『歴史のための全米基準』がある（1996年に改訂）。そこでは、「歴史的思考

に関する基準」として、以下の5項目が挙げられている。

ア 年代順の思考：出来事の経過の正確な把握，継続と変化の理解

イ 歴史的理解：叙述の目的や意図，叙述内容とその根拠の読解

ウ 歴史的分析と解釈：類似点と相違点の比較，因果関係の分析，自身の歴史像の構築

エ 歴史的研究能力：収集した資料の批判的な読解と論理の組み立て

オ 歴史の争点分析と意思決定：代案の立脚とその是非の評価，課題解決のための意思決定以上，①，②で紹介した能力等，及び「歴史的思考に関する基準」を踏まえ，歴史の授業では，次のような力を身に付けさせたい。

- 歴史的事象相互の因果関係や共通点・相違点を捉えて思考する力
- 歴史叙述等の資料に対する批判的な見方や多面的・多角的な見方に基づいて思考する力
- 歴史叙述等の資料を根拠として歴史像を形成する力

歴史科目の最終的なねらいは、「国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」ことにある。上記の力を基に，現代社会が当面している課題の解決や将来的な展望について，歴史的事象の中に論拠を見いだし，自らの意見を構築できる生徒を育てたいものである。

(2) 地理

地理の授業を通して身に付けさせるべき思考力は，以下の①及び②を基盤としている。

① 地理的な見方や考え方

地理的な見方や考え方とは、「いろいろな物事の地理的・空間的な広がり注目して，そのパターンや特徴を捉え，それが作り出されるメカニズムや，広がりから生じる地域間の差異などを読み解き・考察していく」ことである（「地理学的な見方・考え方とは？」国士舘大学文学部地理・環境専攻パンフレット第四版より）。高等学校学習指導要領解説では，「地理的な見方」と「地理的な考え方」に分けて，次のように説明している。

◇ 地理的な見方：日本や世界に見られる諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりで地理的事象として見いだすこと。

… どこに，どのようなものが，どのように広がっているのか。どのような空間的な規則性や傾向性が見られるのか。

◇ 地理的な考え方：地理的事象を地域という枠組みの中で考察すること。

… なぜそこで，そのように見られるのか。なぜ，そのように分布したり移り変わったりののか。

② 地理的技能

地理的な見方や考え方は，地理的技能の上に立って育成されるものである。高等学校学習指導要領解説では，「地理情報の活用に関する技能」と「地図の活用に関する技能」に分けて，次のように説明している。

◇ 地理情報の活用に関する技能

- ・地理情報を選別し，地理情報の性格，種類などを捉えること。
- ・地理情報の所在，収集に関する知識や方法を身に付けること。
- ・情報の地理情報化の視点や方法を身に付けること。
- ・地理情報の処理や表現に関する技能を身に付けること。

◇ 地図の活用に関する技能

- ・地図に慣れ親しみ、見知らぬ地域を地図を頼りにして訪ね歩く技能を身に付けること。
- ・学習や日常生活の中で出てくる地名に関心をもち、その位置を確かめるようになること。
- ・地図から地理的事象を読み取ったり、地理的事象を地図を通して追究し捉えたりする技能を身に付けること。
- ・地域の諸事象や情報の地図化の適否を判断し、適切に地図化する技能を身に付けること。
- ・略地図を描く技能を身に付け、略地図で位置を示したり、略地図を使って日本や世界に見られる諸事象を捉え、説明したりするようになること。

具体的な技能としては、「地図の読図や作図」「衛星画像や空中写真、景観写真の読み取り」が身に付けるべきものとされている。また、インターネットやGIS（地理情報システム）などを活用して情報を収集・分析すること、目的に応じて表やグラフを作成すること、野外での調査・観察・聞き取りを行うことも具体的な技能である。

以上を踏まえ、地理の授業では次のような力を身に付けさせたい。

- 地理的技能に裏打ちされた地理的な見方や考え方を基に、地理的な諸課題や諸事象を考察する力

(3) 公民

公民科の教科目標は、「公民としての資質を養う」ことである。「公民的資質」とは、およそ以下の5項目を基盤とするものである。

- ア 現代の社会について探究しようとする意欲や態度
- イ 社会についての広く深い理解力と健全な判断力
- ウ 豊かな社会生活を築こうとする自主的な精神
- エ 人間としての在り方生き方についての自覚
- オ 自己の人格の完成に向かおうとする実践意欲

こうした能力や態度を、公民科における各科目の目標に合わせて考えると以下のとおりとなる。

① 現代社会

- ◇ 現代社会の基本的な問題に対する判断力
- ◇ 人間としての理解を深め、在り方生き方を考える力
- ◇ 主体的に学習に取り組むための学び方の習得を図ること。

② 倫理

- ◇ 自己形成の課題や人間としての在り方生き方について考える力
- ◇ 他者と共に生きる主体として、深く自己を見つめる態度

③ 政治経済

- ◇ 平和で民主的な国家・社会の形成者として必要となる判断力
- ◇ 公共的な事柄に自ら参画していくための意欲

以上、「公民的資質」に関する5項目と公民科における各科目の目標を踏まえ、公民の授業では次のような力を身に付けさせたい。

- 人間としての在り方生き方について考える力
- 社会の諸課題について主体的に判断する力
- 現代の社会と人間の関わりについて理解する力

Ⅱ 授業プランニング

Ⅱ－1 年間指導計画の作成

学習指導要領で示された各科目の目標の実現に向けて、1年間の授業における学習内容等を記したものが年間指導計画である。教科会等において相談を密に行って、1年後、もしくは2年後の目標達成のイメージを教員間で共有し、段階的な指導計画を作成したい。

愛知県立の高等学校で使用する年間指導計画の記入例を次ページに掲載する。

留意事項等については、以下のとおりである（各番号は、記入例の吹き出しの番号に対応）。

- ① 「科目の目標」
 - ・学習指導要領に示された各科目の目標を記入する。
- ② 「評価の観点及びその趣旨」
 - ・「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 地理歴史】または【高等学校 公民】」（国立教育政策研究所教育課程研究センター，平成24年7月）を参照する。
- ③ 「単元及び学習内容」
 - ・学習指導要領の項目名または教科書の単元名を記入する。ただし，教科書は，学習指導要領の内容を超えて発展的または補足的に記述されている場合もあり，内容の全てを網羅する必要はない。
 - ・学習指導要領の大項目が全て満たされているようにする（2年間にわたって履修する科目については，2年間で全ての大項目が満たされているようにする）。
 - ・主題や課題を設定して行う学習の場合は，その主題や課題についても記入する。ただし，生徒に主題または課題を設定させる場合はその必要はない。
- ④ 「評価規準」 ※評価の詳細については34, 35ページを参照。
 - ・小単元または中単元ごとに評価規準を設定する。各学校において，学校や生徒，地域の実情を踏まえて適切に設定するとともに，実際に評価を行い，指導の改善に生かす。
 - ・文末は，「～（し）ている。～できる。」という表現で統一する。
- ⑤ 「評価の観点」
 - ・評価規準に照らして評価の観点を設定し，○を付ける。
 - ・特定の観点到に偏ることがないように留意する。また，1時間の授業の中で，4観点全てについて評価するのではなく，重点化する。
- ⑥ 「評価方法」
 - ・各学習場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を設定する。
- ⑦ 「進捗状況」（学期末及び学年末に記述）
 - ・学習活動及び学習評価の進み具合を記録する。
- ⑧ 「反省等」（学期末及び学年末に記述）
 - ・学習評価の結果を今後の指導の改善にどう結び付けるかという視点から記述する。具体的には，各単元における観点到ごとの評価の結果と，定期考査等における評価の結果を合わせて，学期末に評価を総括し，目標の達成度合いや今後の課題を記述する。
- ⑨ 「学級別実施時間」（学期末及び学年末に記入）
 - ・学期ごと，または学年末に各学級の実施時間を把握する。
- ⑩ 「年間配当時間」
 - ・1単位当たり35単位時間を標準とする。

校長	教頭	教務主任	教科主任

平成〇〇年度 年間学習指導計画

教科	公民	学年	〇	教科書(発行者)	現代社会(〇〇出版)	指導者	□ □ □ □ 印
科目	現代社会	単位数	2	補助教材(発行者)	図説現代社会(△△書店)		× × × × 印

科目の目標 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。

1 関心・意欲・態度	2 思考・判断・表現	3 資料活用・技能	4 知識・理解
現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的現象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見出し、社会的現象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関する基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

学期	月	単元及び学習内容	配当時間	評価の観点				評価規準	評価方法	進捗状況	反省等
				1	2	3	4				
一 学 期	4	第1部 私たちの生きる社会 ①地球環境と資源・エネルギー ②科学技術の発達と生活 ③情報化の進展と生活 「現代社会の課題を高校生の視点から考えよう」	2					現代社会の諸課題を捉えて考察するための基本的な枠組みを構成するものとして「幸福、正義、公正」などがあつたことを理解するとともに、これらが社会の在り方を理解する上で大切であることを考察し、考察した結果を表現している。	課題探究学習		②
		第2部 現代社会と人間 第1章 青年期と自己形成の課題 1 現代社会と青年の生き方 ①現代社会における青年期 ②自己形成と社会適応と生きかたを創る	6					現代社会に生きる青年として、青年期の意義について関心を高めている。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査 課題考査		
	5	2 よりよく生きることを追求して ①哲学と人間 ②宗教と人間 ③近代科学の考え方 ④人間の尊厳 ⑤人間性の回復を追求して ⑥日本の伝統思想を追求して ⑦外来思想の受け入れと日本人の自覚	6					自己の内面形成と社会との関わり合いの形成の課題を考察し、青年として与えることの大切さについて自覚している。			
		第2章 日本国憲法と民主政治 1 民主政治とは ①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③世界の政治体制	3					民主政治の基本原則に基づきながら、日本国憲法の基本的原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解している。			
	6	2 日本国憲法の基本原則 ①日本国憲法と3つの原則 ②基本的事件の保障 ③新しい人権と人権保障の進展 ④平和主義と安全保障	4					民主政治の前提となる個人の在り方について、個人と国家を中心に考察している。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査 課題考査		
		3 日本の政治機構 ①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と司法 ④地方自治 4 現代政治の特質と課題 ①選挙の構造と課題 ②政党と利益集団 ③世論と政治	7					民主社会に主体的に生きる人間としての在り方生き方について、資料を活用して考察している。			
定期考査・課題考査等											
二 学 期	7	第3章 個人の尊厳と法の支配 1 個人の尊厳と法の支配 ②司法と人権	7					「幸福、正義、公正」などを用いて、基本的人権の保障や法の支配の実現の大切さを考察している。 個人の尊厳を基礎として、基本的人権の保障と法の支配が相互に関連していることを理解している。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査 課題考査		⑧
	9	第4章 現代の経済と国民福祉 1 経済の仕組み ①経済社会の変容 ②現代の企業 ③市場経済の仕組み ④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと働き ⑥中央銀行の役割と金融の自由化 ⑦政府の役割と財政	7					自由な経済活動を基本とする市場経済の意義と機能やその限界、財政・租税、金融について理解を深めている。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査 課題考査		
	10	2 変化する日本経済 ①戦後復興と高度経済成長 ②産業構造の転換と国際経済環境の変化 ③経済のバブル化とその後 ④日本経済の現在	4					雇用、労働問題、社会保障について関心を高めている。			
	11	3 豊かな生活の実現 ①自立した消費者への道 ②労働者の権利 ③現代の雇用・労働問題 ④社会保障の役割 ⑤環境保全と循環型社会	6					個人や企業の経済活動における役割や責任について、資料を活用して考察している。			
	11	第5章 国際社会と人類の課題 1 国際経済のしくみと動向 ①貿易と国際分業 ②外国為替のしくみと国際収支 ③戦後国際経済の枠組みとその変化 ④対立と協調の時代 ⑤グローバル化の進展	6					グローバル化が進化する国際社会の動きを、政治や経済の動向を取り上げて具体的に概観し、国際政治や国際経済に関する諸問題などについて考察して、その結果を表現している。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査 課題考査		
定期考査・課題考査等											
1	12	2 国際政治のしくみと動向 ①国際社会の成り立ち ②国際紛争を避けるしくみ ③国際法の現状と課題 ④東西対立とその後の世界 ⑤核兵器と軍縮への取り組み ⑥グローバル化する国際経済	5					国際平和及び国際協力や国際協調を推進する上で、国際的な組織の果たす役割が増大していることを認識している。	行動観察 ノート確認 発問への回答 プリント課題 定期考査		⑨
		3 国際社会の現状と課題 ①地域統合の進展 ②多様化する世界経済 ③南北問題 ④人口・資源・食糧問題 ⑤民族問題と紛争 ⑥国際社会と人権 ⑦日本の役割	7					国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について資料を活用して考察している。			
	2	3 第3部 共に生きる社会をめざして 「なぜ日本の森林は緑だったのか」	4					持続可能な社会の形成に参画するという観点から、現代社会における課題について探究し、現代社会に対する関心を高めている。 現代に生きる人間としての在り方生き方を考察している。	課題探究学習		
		定期考査・課題考査等									
年間配当時間			70								
年間実施時間											

課題考査や実力テストなども含める。

Ⅱ－2 学習指導案の作成

年間指導計画に基づき、単元全体、あるいは1単位時間の授業計画を記したものが学習指導案である。授業の目標を達成するために、何を（内容）、どのように（順序、方法）指導し、どう評価するかについて、他者にも明確に伝わるような指導案づくりを心がけたい。

1か月単位、1週間単位、1日単位の授業計画も学習指導案であり、それぞれ月案、週案、日案と呼ばれる。また、日々の授業のために簡略化された「略案」と、研究授業等のために詳しく記された「細案」とに分類されるが、統一された定義や形式はない。次ページ以降に「細案」の一例を記載するとともに、留意事項等を以下に記す（吹き出しの番号に対応）。

① 「単元名（主題名）」

- ・学習指導要領の項目名や教科書の単元名、または設定した主題名等を記入する。

② 「単元の目標」

- ・目標に先立ち、以下の事柄等について記すこともある。
 - ◇ 単元設定の理由等 … 単元観 ◇ 教材の解釈等 … 教材観
 - ◇ 生徒の実態等 … 生徒観

③ 「単元の配当時間」

- ・各次程を指導計画順に記し、配当時間を示す。「単元構想図」として示すこともできる。
- ・単元全体における「本時」の位置を明確にする。

④ 「単元の評価規準」

- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 地理歴史】または【高等学校 公民】」における、「内容のまとめりごとの評価規準」を参考にして記す。

⑤ 「指導と評価の計画」

- ・単元の評価規準を基に、各次程における具体的な評価規準を設定し、評価方法とともに指導計画に位置付ける（詳細については、表中を参照）。

⑥ 「本時の目標」

- ・「単元の目標」を踏まえ、重点化した本時の具体的な目標や、この時間で生徒に身に付けさせたいこと等を1～2項目に絞って記述する。
- ・文末は、「単元の目標」と同様に「～させる」とする。

⑦ 「本時の指導計画」

- ・1時間における具体的な教授・学習活動の構想を、学習段階（導入、展開、まとめ）に位置付けて表記する（詳細については、表中を参照）。
- ・「学習内容」と「学習活動」とを「主たる学習活動」のように一つにまとめ、「指導上の留意点」と「評価の観点・評価方法」とを「教師の指導」のように一つにまとめることもある。
- ・具体的な発問の内容を表中に示すこともある。

⑧ 「本時の評価規準」 ※評価の詳細については34, 35ページを参照。

- ・「本時の目標」と整合させる。
- ・多数の評価規準を設けない（評価場面を設けない）。

【 その他 】

- ・学習指導案に添付する資料としては、「板書案」や教科書及び副教材のコピー等がある。
- ・学習指導案は、あくまで計画・構想である。実際の授業においては、目の前の生徒の反応等に即して進めることを心がけたい。

学習指導案の形式（例）

地理歴史科・公民科（科目名）学習指導案

指導者 愛知県立〇〇高等学校教諭 〇〇〇〇印

- 1 日時・場所 平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）第〇限 〇〇教室
- 2 学級 〇年〇組（科名・スタディ名）男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名
- 3 単元名 〇〇〇〇
- （主題名）

- 4 単元の目標
- (1) 〇〇〇……に対する関心を高め、意欲的に追究させる。
- (2) 〇〇〇……について、多面的・多角的に考察させるとともに、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 〇〇〇……から有用な情報を読み取らせるとともに、図表などにまとめさせる。
- (4) 〇〇〇……を理解させるとともに、その知識を身に付けさせる。

- 5 単元の指導計画
- (1) 単元の配当時間
- ・ 〇〇〇〇 1 時間
 - ・ 〇〇〇〇 1 時間
 - ・ 〇〇〇〇 2 時間（本時 1/2 時間）

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
…に対する関心を高め意欲的に追究しようとしている。	…を多面的・多角的に考察するとともに、…を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	…に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取った図表などにまとめたりしている。	…についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

(3) 指導と評価の計画（4 時間）

次程	ねらい・学習活動等	関	思	技	知	評価規準等
第一次 （1 時間扱い）	【ねらい】 ……について理解させ、 ……を捉えさせる。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇〇〇…… <p>各次程の評価場面における学習活動を記す。</p>			●		<ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇〇〇…… （△△△△） <p>評価規準を記す。また、（ ）内には評価方法を記す。</p>
第二次 （1 時間扱い）	【ねらい】 ……の特色を考察させ、 ……について理解させる。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇〇〇…… <p>各次程におけるねらいを記す。</p>			●		

い) 第三次 (2時間扱)	【ねらい】 ……から課題を見だし、 ……について考察した結果を説明させる。			
	<ul style="list-style-type: none"> • ○○○○ …… • ○○○○ …… 	●		<ul style="list-style-type: none"> • ○○○○ …… (△△△△) • ○○○○ …… (△△△△)
事後	<ul style="list-style-type: none"> • 定期考査 (ペーパーテスト) の実施 	●		<ul style="list-style-type: none"> • ○○○○ …… • ○○○○ ……

6 本時の学習

⑥

(1) 本時の目標

○○○○ ……

(2) 教材 教科書名 (発行所名), 副教材名, プリント, ワークシート, その他の準備物

(3) 本時の指導計画

⑦

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点・評価方法
導入 (分)	指導項目を体言止めで記す。	生徒側の視点で活動を詳しく記す。予想される生徒の反応も記す。 「発表する」「調べる」「理解する」「気付く」「考える」等	学習活動と連動して教師の活動を詳しく記す。 「発問する」「指示する」「指名する」「机間指導を行う」「板書する」「気付かせる」等 学習形態や資料の取り扱いの観点, 関連する資料等も記す。	学習活動と連動するように評価場面を設定し, 評価の観点及び評価方法を記す。 [記入例] 【思考・判断・表現】 ワークシート
展開 (分)				
まとめ (分)				

⑧

(4) 本時の評価規準

• △△△△の評価規準 【思考・判断・表現】
 「○○○○…」

△△△△には評価場面または評価方法を, 【 】には評価の観点を記す。

この状況を実現していれば「おおむね満足できる」状況となる。

「おおむね満足できる」状況 (B) と評価される例	<ul style="list-style-type: none"> • ○○○○ …… <p>上記の評価規準を踏まえた, より具体的な記述例を記す。</p>
「十分満足できる」状況 (A) と評価される例	<ul style="list-style-type: none"> • ○○○○ …… • ○○○○ …… <p>質的な高まりや深まりをもっていると判断する具体的な記述例を記す。</p>
「努力を要する」状況 (C) と評価される生徒の例と教師の指導	<ul style="list-style-type: none"> • ○○○○ ……ができない。 → ○○○○ ……するよう促す。

7 御高評

Ⅲ 思考力等の育成に向けた授業づくりの視点

Ⅲ－１ 言語活動の充実

新しい学習指導要領では、各教科等を貫く重要な改善の視点として、言語活動の充実を位置付けている。言語活動は、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むための有効な手だてである。地理歴史科・公民科の目標を実現するために、授業の中で積極的に言語活動を取り入れたい。

(1) 授業改善の視点から

主体的に学習に取り組む態度を養おうと思えば、教師が説明するだけでなく、例えば授業の中で生徒に説明させる場面を設けた方が効果は期待できる。また、教師が説明に終始しては、内容に関する生徒の理解度を把握することは難しいが、何らかの表現の機会を設けることで把握しやすくなり、指導の改善につなげることができる。そして、表現することで知識や技能は頭の中での理解だけにとどまらない、実際に使えるものとなり、習得を一層確実なものにする。言語活動を積極的に取り入れることで、地理歴史科・公民科の授業は大きく変わることが期待できる。

(2) 地理歴史科・公民科における言語活動の例

平成20年の中央教育審議会答申では、学習指導要領の改訂に向けて、社会、地理歴史、公民の改善の基本方針が示された。そして、一層重視する方向で改善を図るとされた内容の中に、以下のような言語活動の事例を見ることができる。

- ◇ コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること。
- ◇ 社会的事象の意味、意義を解釈すること。
- ◇ 事象の特色や事象間の関連を説明すること。
- ◇ 自分の考えを論述すること。

また、文部科学省は「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」の中で、地理歴史科・公民科の特質を踏まえた言語活動として、解釈や説明、論述の他にも、例えば次のような内容を示している。

- ◇ 異なった意見をもつ人と議論すること。
- ◇ 議論等を通して自分の考えをまとめること。

いずれも、情報を頭の中で「編集」し、「表出」する学習活動と言える。地理歴史科・公民科にふさわしい「編集」内容を考えて、生徒に取り組みせたいものである。

なお、地理歴史科・公民科の授業に馴染む他の言語活動の例としては、ディベート等の討論やロールプレイ、プレゼンテーション等が考えられる。

(3) 言語活動の留意点

言語活動の充実を図る上で留意すべき点を以下にまとめる。

- ア 言語活動は手だてである。授業のねらいや目標を実現するために、最も効果的なものであることが求められる。
- イ 言語活動を行うことが目的ではない。言語活動自体が、学習評価の対象となることはない。
- ウ 言うまでもなく、言語活動は生徒の学習活動である。
- エ 適切な言語活動を具体的に構想し、意図的・計画的に設定する。
- オ 言語活動は、その質が重要であり、発言の数量が多ければ充実しているというわけではない。思考や判断との関わりが薄い言葉のやりとりは、求められている言語活動には当たらない。

Ⅲ－２ 主題学習・課題探究学習とは

主題学習，課題探究学習とは，適切な主題または課題を設定し，生徒の主体的な活動を中心に展開する一種の問題解決的な学習である。知識や技能を活用し，思考力，判断力，表現力等を育成する機会として指導計画の中に位置付け，系統的な学習と有機的に結び付けるよう心がけたい。

(1) 主題学習，課題探究学習の意義

日頃の授業においては，教師が語句を整序して板書し，系統立てた説明を中心に展開する形態が一般的であると思われる。歴史であれば，いわゆる「通史」の授業がその代表になる。この学習形態は，多くの知識を一斉に教えることを可能にするが，先に述べたとおり，生徒の学習姿勢が受け身になるというデメリットもある。

これに対して，主題学習や課題探究学習では，生徒の主体的な活動を中心に授業が展開される。高等学校学習指導要領においては，それまでに得た知識や技能を総合的に活用し，言語活動の充実を図る場として，この学習形態による授業が位置付けられている。

(2) 主題学習，課題探究学習の進め方

生徒の主体的な活動を中心に展開することと，授業時間の全てを生徒任せにすることとは同じではない。はじめのうちは，教師が適切な主題を設定し，課題の追究に資する説明や，資料に関する情報を生徒に提供することが必要となる。そして，課題解決のためのスキルを段階的に積み上げさせ，追究の手順を身に付けさせた後に，主題または課題の設定から追究，まとめまでを生徒に計画・立案させたい。

なお，ここでいう主題学習とは，生徒の主体的な活動を中心に展開する学習形態を指す。ある主題について，教員の説明を中心に展開する学習形態を指すものではない。

(3) 主題学習，課題探究学習の設定箇所と位置付け

高等学校学習指導要領では，各科目の「２ 内容」において，以下の項目を主題学習や課題探究学習の場面として設定している。

世界史A

- ・ (1) 世界史へのいざない ア 自然環境と歴史 イ 日本列島の中の世界の歴史
- ・ (3) 地球社会と日本 オ 持続可能な社会への展望

世界史B

- ・ (1) 世界史への扉 ア 自然環境と人類のかかわり
イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり ウ 日常生活にみる世界の歴史
- ・ (2) 諸地域世界の形成 エ 時間軸からみる諸地域世界
- ・ (3) 諸地域世界の交流と再編 エ 空間軸からみる諸地域世界
- ・ (4) 諸地域世界の結合と変容 オ 資料からよみとく歴史の世界
- ・ (5) 地球世界の到来 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題

日本史A

- ・ (2) 近代の日本と世界 ウ 近代の追究
- ・ (3) 現代の日本と世界 ウ 現代からの探究

日本史B

- ・ (1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料
- ・ (2) 中世の日本と東アジア ア 歴史の解釈

・ (3) 近世の日本と世界 ア 歴史の説明

・ (6) 現代の日本と世界 ウ 歴史の論述

地理A

・ (2) 生活圏の諸課題の地理的考察 ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査

地理B

・ (3) 現代世界の地誌的考察 ウ 現代世界と日本

現代社会

・ (3) 共に生きる社会を目指して

倫理

・ (3) 現代と倫理 イ 現代の諸課題と倫理

政治・経済

・ (3) 現代社会の諸課題

ア 現代日本の政治や経済の諸課題 イ 国際社会の政治や経済の諸課題

<主題学習，課題探究学習の位置付け>

① 科目の導入としての主題学習 → 世界史A(1)のア，世界史B(1)のア，日本史B(1)のア

世界史に関して言えば，地理や日本史との関連付けなど，中学校社会科の内容との連続性に配慮して主題を設定し，導入時期に科目への関心を高め，学習の意義に気付かせることをねらいとしている。

② 科目のまとめとしての主題学習

→ 世界史A(3)のオ，世界史B(5)のオ，日本史A(3)のウ，日本史B(6)のウ

科目のまとめとして総合的に考察させ，思考力，判断力，表現力等を育成することをねらいとしている。なお，この項目においては，適切な主題を生徒に設定させることとしている。

③ 科目のまとめとしての課題探究学習

→ 地理A(2)のウ，地理B(3)のウ，現代社会の(3)，倫理(3)のイ，政治・経済(3)のア及びイ

科目のまとめとしてそれまでの学習の成果を活用させ，思考力，判断力，表現力等を育成することをねらいとしている。

なお，「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」（文部科学省）では，上記の②及び③で挙げた項目と，世界史Bの(2)のエ，(3)のエ，(4)のオ，日本史Aの(2)のウ，日本史Bの(2)のア，(3)のアのそれぞれの項目において，言語活動の充実を図るものとしている。

(4) 主題学習，課題探究学習の留意点

◇ 作業的・体験的な活動やグループ学習を取り入れることで，生徒の主体的な学習場面を保証するなど，指導方法や学習形態を工夫したい。

◇ 技能を段階的に高めていくよう継続的に指導し，単発的・トピック的な学習に終わらせないことが肝心である。

◇ 主題学習や課題探究学習は，生徒が疑問や課題意識をもつところから始めることが望ましい在り方である。目の前の生徒の興味・関心とはかけ離れた主題や課題の設定は避けたい。

◇ 学習指導要領は，あくまで基準を示したものである。例えば，日本史Bの大項目(4)や(5)等，主題学習が設定されていない内容においても，主題学習を積極的に行いたい。

主題学習において生徒に考察させる場面を設け、その内容を記述させるような場合には、ワークシートを補助教材として活用することが多い。ワークシート上の設問に対する自分の考えをまとめ、それを積み上げることで思考を深められるよう、内容を工夫したワークシートを作成したい。

(1) 具体的な活用法（ワークシートの具体例）

『ビゴーなどの風刺画に見る条約改正の背景』

年 組 番 氏名

1 井上馨は、なぜ鹿鳴館を建てたのか。

<記述例>...近代化（欧米化）したことをアピールし、条約改正を有利に進めるため。.....

2 右のビゴーの風刺画「社交界に出入りする紳士淑女」を見て、気づいたことを自由に書きなさい。

<記述例>...・鏡に映る日本人の顔が獣（猿）のよう。.....
...・西洋人をまねしているだけ（猿まね）である。.....

3 ビゴーの風刺画がなぜそのように描かれたのかを考え、井上外交当時の日本が欧米列強からどのように見られていたのかを述べなさい。

<記述例>...・日本の近代化は上辺だけのものである。.....
...・日本はいまだ近代国家とは言い難いと見ている。.....

4 陸奥外交によって日清戦争の直前に日英通商航海条約が締結できた理由を、イギリスと日本の国際上の問題に留意しながら述べなさい。

<記述例>...極東におけるロシアの南下政策に対し、イギリスと日本はともに警戒感を強めていたから。.....
...（日本の近代化が認められたわけではない。）.....

5 小村外交により日米通商航海条約が締結され、日本は条約改正を達成できた。条約改正が認められた背景について述べなさい。

<記述例>...日本は、...憲法制定など立憲国家としての体制を整備し、殖産興業を行って資本主義を発達させ、国力を高めた。また、日清、日露の両戦争に勝利して、国際的地位をも高め、欧米列強から近代国家として認められることになった。.....



時局風刺雑誌『トバエ』〔第二次〕
（明治20年刊）『ビゴーが見た日本人』
（清水勲著、講談社学術文庫）から転載

(2) ワークシートの特徴

- ・ワークシートには、授業の流れに沿った設問が設定される。教師は、ワークシートを作成することにより、生徒の思考を深めるための効果的な授業の展開を計画することができる。
- ・ワークシートに記述した内容を振り返ることにより、生徒は自分自身の思考の流れ、思考の変容を知ることができる。

Ⅲ－３ 日常の授業における思考力等の育成

思考力等を段階的・継続的に育成するためには、主題学習や課題探究学習の機会だけではなく、生徒に考察させる場面を日常的に設けることが大切である。日頃の授業の中で、発問等の適切な方法を用いて生徒の思考力等を育成したい。

(1) 発問を通じた思考力等の育成

森分孝治は、著書『社会科授業構成の理論と方法』の中で、社会科のねらいを「社会的事象・出来事を科学的に説明できるようにさせる」こととしている。そして、説明を求める問いとして「何」「いかに」「なぜ」の3種類を挙げる。

何 (what)	〔問〕 これは何ですか → 〔答〕 これは…です = 分類による説明
いかに (how)	〔問〕 ～はどのように…されますか → 〔答〕 ～は△△△のようにして…されます = 記述による説明
なぜ (why)	〔問〕 ～はなぜ…ですか → 〔答〕 ～は△△△という理由で…です = 推論による説明

森分は、「何」に答えることは、既知の概念によって分類した結果を説明することであるとし、その回答を「分類による説明」と呼ぶ。また、「いかに」に答えることは、既知の概念によって過程〔例1〕ないし構造〔例2〕を記述し説明することであるとし、その回答を「記述による説明」と呼ぶ。

〔例1〕 法律はどのようにして制定されますか。

→ まず、法律案が内閣あるいは議員から議院の議長に提出されます。議長は、法律案をその内容に従って、それぞれの委員会にまわします。委員会は……。

〔例2〕 内閣はどのようになっていますか。

→ 内閣は、内閣総理大臣とその他の国务大臣とによって組織されています。内閣総理大臣は国务大臣を指名します。内閣総理大臣は…を行い、……。

さらに森分は、「なぜ」に答えることは、推理・推察によって、事象を説明するものを見付け、関連付けを行うことであるとし、その回答を「推論による説明」と呼ぶ。そして、科学的説明とは、ある事象が起こったこと、あるいは法則が成立することの原因や理由を明らかにすることであり、その意味でより科学的かつ社会科のねらいにふさわしいものは「推論による説明」であるとする。既知の概念に基づく「分類による説明」や「記述による説明」は、「推論による説明」の手段となるものである。

既知の概念とは、「習得した知識」である。これを「活用」して推論は構築される。「なぜ」に答えることは、習得した知識を活用して課題を解決することに他ならない。思考の結果としての推論を生徒に築かせるべく、授業では「なぜ」と問いかけたい。

(2) ワークショップを通じた思考力等の育成

ワークショップとは、学びや創造、問題解決等の手法の一つである。参加者が自発的に作業や発言を行える環境において、ファシリテーターの進行の下で、体験を通して学ぶ。この手法による授業形態をワークショップ型授業といい、説明（導入）＋活動（展開）＋振り返り（終末）を基本構造とする。

- ① ワークショップ型授業（地理歴史科・公民科）のねらい
- ・他者との対話を通して、さまざまな見方・考え方があることに気付くとともに、相互に考え方を認め合う態度を養う。
 - ・社会的事象を自分に関連付けたり、事象同士を関連付けたりする中で考察したことを自身の言葉で表現することによって、活動の学習化を図る。

② ワークショップの活用法

<活動例>

- ・表現、制作的なもの：ロールプレイ、キャッチフレーズづくり、和歌・狂歌づくりなど
- ・対話・話し合的なもの：ディベート、ランキング、部屋の四隅など

※活動のプログラムは、その組み立て方によって、15分程度で取り組めるものから、1時間ないし2～3時間の授業時間をかけて取り組むものまで、さまざまに考えることができる。

<ワークショップ型授業の例>

◆ **部屋の四隅** 「日本史B－満州事変勃発前後の国内状況＝（1時間）」

満州事変勃発直前に、石原莞爾によって主張された『満蒙問題私見（要旨）』（資料【A】）と石橋湛山によって主張された『東洋経済新報社説（一部抜粋）』（資料【B】）を基に、この時代の国内の様相を捉えるとともに、満州事変の経緯を学ぶ。

【A】石原莞爾の考え『満蒙問題私見（要旨）』（1931年5月）

- 一 **満蒙ノ価値** 政治的：国防ノ拠点、朝鮮統治支那指導ノ根柢、経済的：刻下ノ急ヲ救フニ足ル
- 二 **満蒙問題ノ解決** 解決ノ唯一ノ方策ハ之ヲ領土トナスニアリ
之カ為ニハ其正義ナルコト及び之ヲ実行スルノカアルヲ条件トスル
- 三 **解決ノ時期** 国内ノ改造ヲ先トスルヨリモ満蒙問題ノ解決ヲ先トスルヲ有利トス
- 四 **解決ノ動機** 国家的：正々堂々、軍部主導：謀略ニヨリ機会ノ作製、関東軍主導：好機ニ乗ス
- 五 **陸軍当面ノ急務** 解決方策ノ確認、戦争計画ノ策定、中心力ノ形成

（歴史学研究会編『日本史史料（5）現代』岩波書店、平成9年）

【B】石橋湛山の考え『1931年10月10日東洋経済新報社説（抜粋）』

人口問題は、領土を広げたからとて解決は出来ぬ。我が国は、台湾・朝鮮・樺太を領土に加え、関東州・南洋諸島を勢力下に置き、満州の経営にまた少なからざる努力を払ったが、その結果は全く何ら人口問題の解決に役立ってはいない。現在まで、満蒙は何ら原料供給の特殊の便宜を与えていない。敢えて満蒙に我が政治的権力を加うるに及ばず、平和の経済関係、商売関係で悠々目的を達し得ることである。

（松尾尊允編『石橋湛山評論集』岩波書店、昭和59年）

手順

- I 教室内にこれらの主張について、「Aに賛成」「どちらかというAに賛成」「Bに賛成」「どちらかというBに賛成」の4つのコーナーを設ける。
- II この当時の国民（政治家、財閥、将校、豪農、貧農、労働者等）として、どの立場で考えるかを明らかにした上で、どの意見かを決め、その理由を書き出す。
- III いずれかのコーナーへ移動する。
- IV 全員の移動が完了したら、同じコーナーにいる者同士で選んだ理由を発表し合う。さらに、コーナーごとの意見をまとめる。

V 他のコーナーの者と意見を交換し合う。

VI 再度、自分の考えを見直し、「Aに賛成」または「Bに賛成」のいずれかを選ぶ。意見や立場が変わった場合、あるいは変わらなかった場合のいずれにおいてもその理由を書き出す。改めてコーナーへ移動する。

VII 振り返り（満州事変の経緯と自分の考えを照らしながら、さまざまな立場から捉えたこの時代の全体像等、考えたことを書き出す）を行う。

③ 留意点

- ・指導者による一方通行的な知識や技術の伝達ではなく、生徒が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学び合ったり、作り出したりする双方向的な学びの場と時間とを保証することが肝要である。
- ・指導者が活動の枠組みを明確に示すこと、さらには生徒が振り返りにじっくりと取り組むことによって、活動の学習化を図ることが重要である。
- ・1回限りの活動を捉えて、「思考・判断・表現」や「関心・意欲・態度」等が育つとは言い難い。説明中心の授業との関連付けを図りながら、ワークショップを取り入れた授業に継続的に取り組むことが必要である。時間軸にそって活動の様子を観察したり、振り返りの言葉を読み続けたり、一つ一つの事実の積み重ねを繰り返して、変化や成長の全体像をつかむ視点をもちたい。

— N I Eについて —

N I Eとは、Newspaper in Education の略称であり、新聞を教材として授業で活用することである。

① N I Eのねらい

- ・世界や国内、地方の生きた社会的事象（タイムリーな出来事）に触れられる。
- ・新聞記事の文章、グラフ、表等を生徒が分析することにより、主体的に読み取り、解釈する力を育成することができる。
- ・メディア・リテラシーの育成につながる。

② 具体的な活用法

- ・新聞記事を読み、生徒一人一人に見出し語を付けさせる。→ 読解力の育成
- ・一つの社会的事象について、各新聞社の記事を読み比べ、各記述内容（見解）の主旨を生徒にまとめさせる。→ 批判的思考力・複眼的思考力、メディア・リテラシーの育成

③ 留意点

著作権の問題に配慮する（新聞記事等を複製し、授業で生徒に配付する場合）。

著作権法では、文部科学省が定める教育機関及びこれに準ずる機関（大学、短大、小中高校、幼稚園、専修学校等）における複製については「必要最小限とし、その出所を明示」すれば著作権の侵害には該当しないとしている。新聞記事の場合には、掲載紙名、見出し、発行年月日を明示する必要がある。

— 知識・技能の確実な習得のために —

知識や技能は、思考力等の育成を図る目的で活用することにより、効果的に習得できる。それ以外に知識の習得を図る方法としては、小テストの実施などがあるが、ここでは知識の効果的な習得に関する他の方法を紹介したい。

マインドマップ

マインドマップとは、頭の中で起こっていることを目に見えるようにした思考ツールのことである。表現したい概念の中心となるキーワードを中央に置き、そこから放射状にイメージを広げ、つなげていく描き方が一般的である。

マインドマップを描くことで、知識の習得をより確実にすることが期待できる。考査の事前学習や家庭での学習課題として生徒に描かせてみることも一つの方法である。歴史における文化の分野や、政治経済・現代社会における国際機関等、地理歴史科・公民科においては題材に事欠くことがない。

以下は、日本史における「化政文化」を題材としたマインドマップの例である。



(ジャンルは○，用語は□とした)

<留意点>

まずは、紙の中央から描き始める。太く、大きく目立つように中央から枝を伸ばし、だんだん細く描いていく。たくさんの色を使ってカラフルにし、言葉だけではなく絵も使うと更によい。

Ⅲ-4 授業実践例

新しい学習指導要領の下で、主に思考力、判断力、表現力等の育成をねらいとする授業実践例を科目ごとに紹介する。なお、ここに挙げる授業実践例の表記に関する特記事項は以下のとおりである。

- ◇ 「(2) ねらい」を述べた文に続けて、取り入れた言語活動をく >内に記した。
- ◇ 「(3) 指導計画」では、授業の展開について具体的なイメージが湧くよう、表中の の中に発問や指示内容を記した。
- ◇ 表における「評価」欄の◎は評価場面を示している。具体的な評価の観点、評価方法、評価規準は表の外に記した。

世界史 A

ナイルの恵み - 導入時期の学習で地理と歴史への関心を高める授業 -

(1) 学習指導要領の該当箇所（項目）とキーワード

「(1) 世界史へのいざない ア 自然環境と歴史」

- ・ 導入時期に主題を設定して行う学習
- ・ 自然環境と歴史との関わり
- ・ 諸資料の活用
- ・ 中学校社会科との連続性

(2) ねらい

資料を読み取り、「ナイルの恵み」の意味を考察させる。<資料を読み取る、説明する>

(3) 指導計画

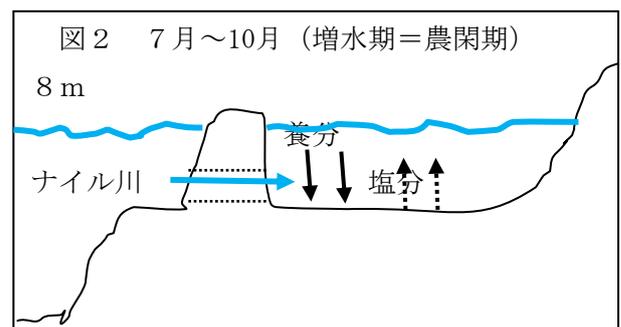
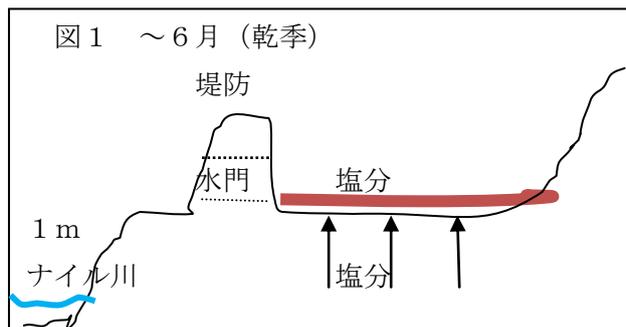
導入として、エジプトの地理的条件・気候をグラフ等で確認させる。以下に示した展開部分に続いて、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることを確認し、まとめ（5分）とする。

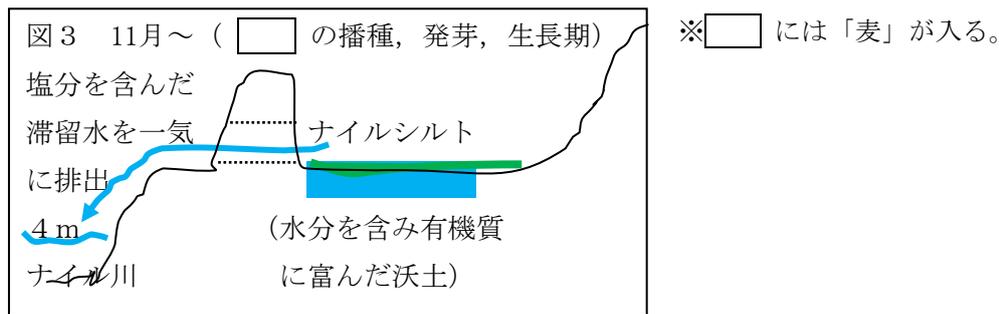
	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展 開 40 分	ナイル川の特徴	・ 図説に掲載されているナイル川の水深を示した月別グラフから満水期、渇水期を読み取る。	・ 人々の関心事が、増水の開始時期であったことに気付かせる。	◎
	灌漑	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 氾濫が起こるにもかかわらず、なぜ「ナイルの恵み」と言われたのだろう。 </div> ・ 図1～3よりナイルシルト（黒土）が残り、塩分が除去されていることを理解する。	・ 具体的な図を示し、ナイルシルトを視覚で理解できるように留意する。	
	「ナイルの恵み」とは	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> グラフと図を基に、「ナイルの恵み」を説明しよう。 </div> ・ 資料を基に、「ナイルの恵み」という言葉の意味をワークシートに記述する。	・ ナイル川の増減のサイクルと生育のサイクルが合致する作物を推測させる。	

◎評価

〔評価の観点〕 思考・判断・表現 〔評価方法〕 ワークシート

〔評価規準〕 「ナイルの恵み」の意味を、資料から読み取った内容を根拠として適切に説明している。





世界史 A ペリーが「日本国民」をつくった？ - 導入時期の学習で日本史との関連付けを図る授業 -

(1) 学習指導要領の該当箇所（項目）とキーワード

「(1) 世界史へのいざない イ 日本列島の中の世界の歴史」

- ・ 導入時期に主題を設定して行う学習
- ・ 日本史との関連付け
- ・ 諸資料の活用
- ・ 中学校社会科との連続性

(2) ねらい

19世紀中頃のヨーロッパの動向を年表に表す活動を通して、世界史における明治維新の意義を考察させる。<年表にまとめる, 解釈する>

(3) 指導計画

導入部分でペリーの肖像画を提示する。中学校社会科の教科書に掲載されており、生徒にも馴染みがある。そのペリーが日本に開国を迫った理由を問いかけ、展開へとつなげていく。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展 開	19世紀前半の欧米	<ul style="list-style-type: none"> ・ イギリスで産業革命が始まり、他国でも進行したことを理解する。 ・ アメリカ国内の経済構造を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1830年代にフランス、1850年代にはアメリカ、ドイツで産業革命が進展したことを理解させる。 ・ アメリカで政治・経済的な対立が起こり、南北戦争へと発展したことを理解させる。 	
	19世紀中頃のアメリカ			
35 分	南北戦争が起こった頃、ヨーロッパではどのような出来事があったのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートの年号等を参考に1860～70年代のイタリア及びドイツの年表を作る。 ・ 作成した年表等で当時のイタリア、ドイツ、アメリカの動向を確認し、共通点を推測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イタリア及びドイツにおける統一国家形成の動きに着目させる。 ・ 産業革命が経済格差を生み出し、従属化・植民地化の危機感をもった地域が、国家統一の必要性を感じて、国民国家の形成を進めたことを理解させる。 	
	19世紀中頃のヨーロッパ 国民国家の形成			
ま と め 10 分	ペリーが「日本国民」を作った？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 19世紀中頃の日本の年表をつくる。 ・ 明治維新の意義を解釈し、ワークシートに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明治維新を世界の歴史の中で捉えさせ、このような動きが局地的なものではなかったことに気付かせる。 	◎

資料1 19世紀中頃の世界 「() 内に適語を入れよう。」(ワークシート中の年表)

	イタリア	ドイツ	日本
1859	(イタリア統一) 戦争		
1861	(イタリア王国) 成立		
1866	(ヴェネツィア) 併合	(プロシヤ-オーストリア) 戦争	(薩長連合)
1867		(北ドイツ連邦) 成立	(大政奉還, 王政復古)
1868			(明治維新, 戊辰戦争)
1869			(版籍奉還)
1870	(教皇領) 占領 (イタリア統一) 完成	(プロシヤ-フランス) 戦争	
1871		(ドイツ帝国) 成立	(廃藩置県)

◎評価

〔評価の観点〕

思考・判断・表現

〔評価方法〕

ワークシート

〔評価規準〕

明治維新を19世紀中頃の
世界に見られた国民国家
形成の動きとして解釈し
ている。

世界史B

大統領，聞いていただけますか？ -核の脅威のない国際社会の実現を展望させる授業-

(1) 学習指導要領の該当箇所(項目)とキーワード

「(5) 地球世界の到来 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題」

- ・持続可能な社会の実現
- ・諸資料の活用
- ・オーセンティック・アプローチ(現実社会で求められる課題解決能力の育成を目指す手法)

(2) ねらい

核兵器の廃絶を求める勧告文を作成させ、課題解決能力を身に付けさせる。

<グループで話し合う，論述する，発表する>

(3) 指導計画

本来であれば、生徒自身に主題を設定させる項目であるが、その前段階の学習と位置付け、大枠を定めた中で探究させることとした。授業は以下の課題を配付するところから始める。

課題

核の脅威のない国際社会の実現を目指し、各国の首脳あてに核兵器の廃絶を求める勧告文を書きます。
文書作成の留意点は以下のとおりです。

- ・核保有国のうちの一国を対象とし、宛名はその国の元首とします。
- ・文書は「はじめに」「本論」「まとめ」の三つで構成します。
- ・「はじめに」では、その国が核兵器を保有するに至った歴史的背景を確認します。
- ・「本論」では、核兵器の廃絶を元首に納得させるための資料を二種類提示します。その上で、あなたの勧告の正当性を説明し、さらには予想される反論について言及します。なお、提示する資料は信頼のおけるものとし、説明には歴史的観点を必ず入れることとします。
- ・「まとめ」では、改めてあなたの勧告の正当性を主張します。

◎評価

① 〔評価の観点〕 資料活用の技能

〔評価方法〕 勧告文

〔評価規準〕 有用な資料を収集し、グラフや図、文章としての的確にまとめている。

② 〔評価の観点〕 思考・判断・表現

〔評価方法〕 勧告文

〔評価規準〕 歴史的観点を踏まえた考察に基づき、論理的で説得力のある勧告を行っている。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価	
展 開 I 40 分	グループ分け	・核保有国を決め、同じ国を選んだ者3～6人で1グループをつくる。	・人数の調整は教員が行う。異なる国のグループに所属させる場合もある。		
	どのような資料を提示すると説得力があるだろう。				
	資料の候補決定	・各グループで調べるべき資料の候補を出し合い、協議する。最終的には三種類程度に絞る。 ・予想される資料 →核保有国及びその近隣諸国の軍事費の推移、被爆に関する種々の統計	・調べるべき資料の候補に優先順位を付けさせ、調査に無駄が生じないよう支援する。 ・「説得力」を意識して資料の候補を挙げているか、机間指導により観察する。		
	役割分担	・グループ内の主担当を決める。 →歴史的背景の確認、資料の収集・加工（複数名）、正当性の説明、反論の言及等	・分業の形態をとるが、常に調査内容の共有化を図りながら作業を行うことを指示する。		
	次時の予告	・今後の活動計画について確認する。	・授業については、調査に1時間、勧告文作成に1時間、発表に1時間を充てることを知らせる。		
展開Ⅱ（50分） 調査活動 … 文献集め（図書館）、インターネット検索（コンピュータ室）等					
展開Ⅲ（50分） 勧告文作成					
展 開 IV 40 分	勧告文発表 相互評価	・各グループが5分以内で勧告文を発表する。 ・他のグループの発表内容を評価する。	・事前に各グループの勧告文をクラス人数分印刷し、授業開始時に配付する。 ・評価シートを用意し、観点や基準が明確になるよう配慮する。	◎	

※全グループの発表後、まとめとして教員による講評の時間を設ける（10分）。

日本史A

ゴッホが描いた浮世絵 – 導入時期の学習で歴史を学ぶ意義に気付かせる授業 –

(1) 学習指導要領の該当箇所（項目）とキーワード

「(1) 私たちの時代と歴史」

- ・近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動
- ・世界中の日本
- ・諸資料の活用

(2) ねらい

欧米における日本文化の流行について、19世紀後半のものと今日のものとを比較から気付いたことをまとめ、歴史への関心を高めさせるとともに、歴史を学ぶ意義に気付かせる。〈考えをまとめる〉

(3) 指導計画

導入として、ゴッホが模写した浮世絵を生徒に見せることから授業を始める。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展 開 35 分	ヨーロッパで浮世絵が流行した理由は何だろう。			
	欧米における日本文化 ジャポニスムとは 当時の日本では	・隣同士で意見を交流する。 ：予想される理由→大胆な構図、鮮やかな彩色等 ・ジャポニスムとは、かつてのヨーロッパで見られた日本趣味であることを知る。 ・近代化を目指す流れの中で、明治政府が西洋美術教育の必要性を認めたことを確認する。	・自由に意見を交流させ、時間を見計らって数名を指名し、理由を述べさせる。 ・印象派の画家が、浮世絵の影響を受けたことを実感させる。 ・富国強兵、殖産興業政策を推進することと、西洋文化の受容との関連性に気付かせる。	

	日本美術の再評価 明治政府の方針の転換	<ul style="list-style-type: none"> ・フェノロサによる日本の伝統美術の再評価を知る。 ・西洋美術の一方的な受容と伝統文化の軽視が改められていった経緯を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェノロサの活動の意義を理解させる。 ・ジャポニズムの流行が、政府の政策転換の一因であったことに気付かせる。 	
まとめ 10分	<p style="text-align: center;">今日、欧米で高く評価されている日本文化には何があるだろう。</p> 日本文化の流行 歴史を学ぶ意義	<ul style="list-style-type: none"> ・高く評価されていると考える日本文化を理由とともに具体的に挙げる。 ：予想される具体例 →アニメーション、和食、武士道精神 ・日本文化の流行について、19世紀後半のものと今日のものとを比較し、気付いたことをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、日本のアニメーションには、鮮やかな彩色やデフォルメなど、浮世絵に見られる手法が息づいていることに気付かせる。 ・歴史を学ぶ意義について、自分の言葉で考えをまとめさせる。 〔例〕異文化の視点から自国の文化を再認識することの大切さ、歴史的事象と現在との結び付きを考えることの大切さ等 	◎

◎評価

〔評価の観点〕 関心・意欲・態度 〔評価方法〕 ワークシート

〔評価規準〕 歴史を学ぶ意義を見だし、具体的な点を挙げて考えをまとめている。

日本史B

一向一揆が守ったもの – 資料の妥当性を判断し、自身の考えを説明する授業 –

(1) 学習指導要領の該当箇所（項目）とキーワード

「(3) 近世の日本と世界 ア 歴史の説明」

- ・ 諸資料を活用して歴史を考察し表現する学習 ・ 歴史の説明

(2) ねらい

一向一揆に関する複数の資料について、それぞれの解釈の妥当性を判断して歴史像（一向一揆像）を構築させ、自身の考えを説明させる。＜説明する＞

(3) 指導計画

前時に織田信長の統一事業を扱い、この時間の導入として復習を行った後に展開へとつなげる。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展開 35分	一向宗徒の行動理念 一揆の性格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料①「野田御書（証如上人消息）」からの抜粋と、資料②「毛利氏黄旗組軍艦旗」の墨書を読解し、当時の門徒の行動理念を考察する。 ・ 資料③『参州一向宗乱記』からの抜粋と、資料④「織田信長の朱印状」からの抜粋を読解し、三河一向一揆の原因と石山戦争の性格を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信仰を守るための戦いとして解釈していることを読み取らせる。 ・ 資料が書かれた時代背景を解説して、生徒の考察を支援する。 ・ 利権を守るための戦いとして解釈していることを読み取らせる。 ・ 生徒を指名して、部分的に解釈させた後、資料が書かれた背景について解説を加え、理解を促す。 	
	一揆像の構築（＝歴史の説明）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身が考える一向一揆像をワークシートに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当時の社会情勢を踏まえ、民衆と寺院、武士の関わりについて考察させる。 	◎
まとめ 10分	ワークシートの回収	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを回収した後に、石山戦争後の武士と寺院との関係について触れる。 	

◎評価

〔評価の観点〕 思考・判断・表現 〔評価方法〕 ワークシート

〔評価規準〕 各資料の解釈の妥当性を判断し、自身の考えた一向一揆像を合理的に説明している。

資料

- ①「今日の合戦に二十一人討死の由、悼はしき是非に及ばず候、然れども、聖人の味方を申され、頼もしくありがたく候、討死の方々は、極楽の往生を遂げ候はんずる事、疑ひなく候、……」
(「野田御書(証如上人消息)」)
- ②「進者往生極楽、退者無間地獄(進まば往生極楽、退かば無間地獄)」
(「毛利氏黄旗組軍艦旗」の墨書)
- ③「一説に、永禄5年(或6年)の秋、野寺の本証寺の境内に悪党有しを、酒井雅楽助、押込て検断せしかば、彼寺の住持并門徒打集、評儀して云様、『当寺は元来、守護使不入の地なるに、譬徒者居たりとて、理不尽に寺内へ押入検断せし事、更に以て其謂れなし。是偏に一宗の瑕瑾ならずや』と憤りを含み、遂に一揆の種因となりたりと云々。……」(『参州一向宗乱記』)
- ④「今度下間丹後以所行、大坂之働不慮之躰、且者対天下不儀、且者背門下之法度之条、旁以無是非次第也、然而当寺内之事、不与下間之由、忠節神妙候、寺内之儀聊不可有別条候」
(「織田信長の朱印状」)

地理A

学校が危ないー地図情報を活用し、防災意識を高める授業ー

(1) 学習指導要領の該当箇所(項目)とキーワード

「(2) 生活圏の諸課題の地理的考察 イ 自然環境と防災」

- ・生活圏における自然環境の特色と自然災害との関わり ・防災意識の向上
- ・主題図(ハザードマップ)の読図 ・地図を活用した学習

(2) ねらい

学校周辺の地形の特色と課題について、主題図や地形図から読み取らせるとともに、講じられている水害対策に気付かせて防災意識を高めさせる。<地図を読み取る>

(3) 指導計画

平成12年の東海豪雨によって学校のグラウンドが水没している様子を航空写真で見せ、対照的に周囲の集落(寺部町)の被害が小規模で済んでいる事実注目させて、授業の導入とする。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展開	ハザードマップと電子地図の読図	<p>被害に差があるのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の地形を思い出し、寺部町周辺が微高地であることに気付く。 ・二つの地図から、被害の大小の分かれ目となった標高(37.5m)を読み取る。 ・学校が後背湿地に立地していることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室前方のスクリーンにハザードマップを写しておく。 ・数名の生徒を指名し、標高に関する発言が出たところで、等高線の入った電子地図も写す。 ・雨天時のグラウンドの様子等を話題にし、地形の特徴を教える。 	
	学校所在地の地形			
35分	旧地形図の読図	<p>どうして現在の場所に学校を建てたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の地に学校が建てられた理由を旧地形図(資料1)から読み取り、ワークシートに記述する。 : 予想される答え → 土地利用の様子、交通の便等 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の本校所在地が、畑として利用されていたことに気付かせる。 ・矢作川東岸地区からの通学の便が考慮されたことに気付かせる。 ・学校用地として考えられる他の場所には、現在TH高校が立地していることにも触れる。 	

まとめ 10分	洪水被害をどのように防いでいるかを見付けよう。		◎
	新旧地形図の比較	<ul style="list-style-type: none"> 新しい地形図（資料2）と旧地形図とを比較し、水害対策として考えられる点を地図から読み取り、ワークシートに記述する。 増強した堤防や遊水池としての機能を有している土地等を地形図から読み取らせる。 実際の水害対策等を確認するために、次時において学校周辺の巡検を行うことを告げる。 	

◎評価

〔評価の観点〕資料活用の技能 〔評価方法〕ワークシート

〔評価規準〕新旧地形図の比較から土地利用の変化を読み取り、学校周辺の水害対策を具体的に述べている。

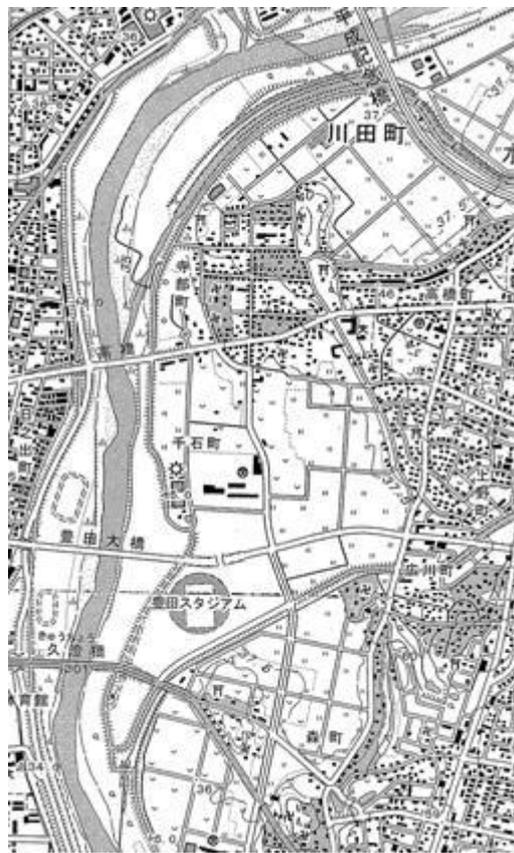
<資料1>

国土地理院発行 25000分の1地形図
豊田北部（昭和53年）豊田南部（昭和54年）



<資料2>

国土地理院発行 25000分の1地形図
豊田北部（平成22年）豊田南部（平成22年）



地理B

共通点を見付けよう -二つの地域を比較して考察する授業-

(1) 学習指導要領の該当箇所（項目）とキーワード

「(3) 現代世界の地誌的考察 イ 現代世界の諸地域」

- ・比較地誌的な考察（対照的または類似的な性格の二つの地域を比較して考察する地誌の考察方法）
- ・歴史的背景を踏まえた考察 ・地球的課題

(2) ねらい

オランダとバングラデシュの二つの地域を比較地誌的に考察させ、両地域の抱える地球的課題に気

付かせる。〈グループで話し合う，発表する，説明する〉

(3) 指導計画

地域区分の指標を「地形」，取り上げる地域を「オランダ」及び「バングラデシュ」とし，比較地誌的な考察方法を用いて行う実践例である。導入において，まずは比較地誌的な考察方法の説明を行う。そして，既習内容や地図帳等を基に，両国の相違点及び共通点を挙げさせ，各自ワークシートに記述するよう指示する。その後，グループ（5～6人）に分け，記述内容を基に意見交換を行わせる。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展 開	比較地誌的な考察 考察結果の発表	<p style="text-align: center;">オランダとバングラデシュの相違点，共通点をグループ内でまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 両国の相違点と共通点をグループ内でまとめ，指定した用紙に箇条書きにする。 まとめた内容を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済（例：GDP），宗教，気候等の項目ごとに分けて，相違点と共通点のそれぞれを挙げさせる。 最初のグループの発表内容を板書して基準とする。その後，付け加える内容の有無を他のグループに確認する。 	◎
	共通する課題 ワークシートの回収	<p style="text-align: center;">両国に共通する課題は何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自が考えた課題をワークシートに記し，合わせて課題の要因を説明する。 ：予想される課題 →人口密度の高さ，国土の多くが低地にあること等 ワークシートを提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 机を元通りにさせた後に発問し，考察させる。 要因として地形に関する用語（三角州，ポルダー等）を使うよう指示する。 建国の歴史的背景も要因であることに気付かせる。 	
ま と め 5 分	地球的課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化に伴う海面上昇と，オランダ，バングラデシュ両国の地球的課題への取り組みを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> オランダにおける一般燃料税の導入や，バングラデシュにおける農地の用地転換，移動式住居による増水対策を紹介する。 	

◎評価

〔評価の観点〕 思考・判断・表現

〔評価方法〕 ワークシート

〔評価規準〕 オランダ及びバングラデシュに共通する課題を，その要因とともに適切に述べている。

—地域区分について—

世界の地表には，さまざまな現象が見られ，それらはある地域的なまとまりをもっている。世界を理解するには，その地域的なまとまりを理解することが必要であり，したがって世界をどのように分けるかが重要となる。地域区分を通して，現代世界の多面性に気付かせたい。

現代世界を幾つかの地域に区分する学習を土台として，地誌学習が行われる。新しい学習指導要領の地理Bでは，「2 内容」の項目「(3) 現代世界の地誌的考察 イ 現代世界の諸地域」において，さまざまな規模の地域を世界全体から偏りなく取り上げ，地誌的な考察を行うが，その土台となるのが項目「(3)のア 現代世界の地域区分」で行う地域区分の学習である。項目「ア」において，「自然，政治，経済，文化」等の指標による具体的な地域区分を行い，これに基づいて項目「イ」の指導計画を立て，地誌学習を行うことが必要である。指導計画の立て方を以下に示す。

- (1) 枠組み（視点、区分の根本となる指標）を決める。
 - ・学習指導要領の「内容の取扱い」では、「自然，政治，経済，文化など」が挙げられている。
 - (2) 枠組みごとに地域を区分する指標を決める。
 - ・自然であれば「気候区」，政治であれば「国家間の結合」，経済であれば「経済成長率」，文化であれば「宗教」等がある。
 - (1)，(2)の内容を「(3) 現代世界の地誌的考察 ア 現代世界の地域区分」において学習する。その際には，学習指導要領の項目「(2) 現代世界の系統地理的考察」の学習成果を活用する。
 - (3) 各指標により区分された中から取り上げる地域を選び，各単元を構成する。単元で扱う地域を概観し，世界全体から偏りなく取り上げていることを確認する。
 - ・国家，州，大陸レベルで選ぶ。
 - (4) 取り上げた各地域について，地誌的に考察する方法を決める。方法には以下の三種類がある。
 - ・取り上げた地域の多様な事象を項目ごとに整理して考察する = 静態地誌的な考察
 - ・取り上げた地域の特色ある事象と他の事象を有機的に関連付けて考察する = 動態地誌的な考察
 - ・対照的または類似的な性格の二つの地域を比較して考察する = 比較地誌的な考察
 - (5) 単元を中心となる問い（理解させたい地域的特色，具体的な学習内容），結び付けることが可能な地球的課題を立てる。
 - (6) 各単元の配当時間を決め，評価計画を立てる。
 - ・対象とする地域や考察方法の違いを勘案して時間を配当する。
 - 実際には(3)～(6)を並行して行う。単元の配列（取り上げる順序）については，内容の関連性や評価計画，考察方法を考慮し，学習の習熟の度合いを踏まえ，より連続的，系統的な学習が可能となるよう留意する（※）。
- ※「関心・意欲・態度」を高めることをねらいとする内容を最初に配列する，比較的取り組みやすい静態地誌的な考察から始める，生徒が把握しやすい国家レベルの地域を最初に配列する等

<指導計画例> ※一部抜粋，評価計画は省略。

枠組み	区分の指標	地域	具体的な学習内容	地球的課題	考察方法	配当時間
自然	気候区	西アジア・中央アジア	自然環境や宗教，産業などを項目ごとに整理して考察する。あわせて，ムスリム間の宗派による対立や，異なる民族間の対立，さらにはさまざまな資源をめぐる国家間の対立について，歴史的背景を踏まえて考察する。	宗教・民族・資源をめぐる対立	静態地誌的な考察	4
経済	GDP	インド，ブラジル	経済発展の著しい両国について，宗教や産業，貿易相手国等を比較し，相違点や共通点などを考察する。あわせて，国内の所得格差に対する両国の対応について，歴史的背景を踏まえて考察する。	国内における所得格差	比較地誌的な考察	3
政治	政治体制	中華人民共和国	社会主義国である中国の一方独裁体制を，人口や経済政策と関連付けて考察する。あわせて，急激な経済成長に伴う大気汚染等の環境問題について，対応策を含めて考察する。	環境問題	動態地誌的な考察	4

※「単元を中心となる問いの例」や評価計画を取り入れた指導計画例については，国立教育政策研究所教育課程研究センター作成の『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 地理歴史）』の92，93ページを参照する。

－ウェブ上の地理教材について－

近年、さまざまな機関が、GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) を利用した地図をウェブ上で提供している。また、GISソフトでデータを加工し、授業で使いたい地図を作成しやすくなっている。

地図作成に必要なソフトやデータの入手先、そして、授業に役立つウェブページについて、若干ではあるが以下に紹介する。

1 各種データ

(1) GISソフト

以下のGISソフトは無料であり、業務用パソコンへのインストールも可能である。

- ・MANDARA (地理情報分析支援システム) (<http://ktgis.net/mandara/index.php>)
… 統計資料を使い、白地図の塗り分けや階級区分図等を描くことができる。
- ・カシミール3D (<http://www.kashmir3d.com>)
… 地形図を基に鳥瞰図を作ったり、等高線のみ白地図を描いたりすることができる。

(2) 各国の地形図データ

- ・国土地理院 (<http://www.gsi.go.jp/>)
- ・アメリカ地質調査所 (USGS) (<http://www.usgs.gov/>)
- ・スイス地理局 (<http://www.swisstopo.admin.ch/internet/swisstopo/en/home.html>)

(3) 白地図

- ・Craft MAP (<http://www.craftmap.box-i.net/>)
… 日本や世界の白地図等を描くことができる。

(4) 統計データ

- ・政府統計の総合窓口 (<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>)
… 総務省統計局のホームページである。国内の各種データがダウンロードできる。

2 GISで作成された地図

- ・国土交通省ハザードマップポータルサイト (<http://disapotal.gsi.go.jp/>)
… 各市町村の洪水・内水・高潮・津波・土砂災害・火山ハザードマップの検索が可能である。
- ・愛知県防災学習システム (<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/>)
… 県内の各地域について防災マップを見ることができる。

オフサイドのないサッカーはどうなるか
 - 「幸福、正義、公正」を用いてルールを考察し、法の意義及び役割を理解させる授業 -

(1) 学習指導要領の該当箇所（項目）とキーワード

「(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 ウ 個人の尊重と法の支配」

- ・幸福、正義、公正などを用いた考察
- ・法や規範の意義及び役割
- ・法に関する見方や考え方

(2) ねらい

「幸福、正義、公正」を用いたルールの考察を通して、法に関する基本的な見方や考え方を身に付けさせる。〈考えをまとめる〉

(3) 指導計画

題材として、身近なスポーツであるサッカーを取り上げる。基本的なルールである「オフサイド」について、内容の確認と誕生の歴史的背景（「抜け駆け禁止」の精神）の説明を行い、導入とする。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展開 30分	<p>もしオフサイドがなかったらどうなるだろう。</p> <p>オフサイドのないサッカー(1)</p> <p>オフサイドはなぜ必要か</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの展開を予想し、隣同士で意見を交換する。 ：予想される答え →点が入りやすくなる、線審が不必要になる、（線審がいなくなり）ラフなプレーが増える等 ・オフサイドというルールの必要性について、「幸福、正義、公正」を用いて考察し、ワークシートに記す。 <p>＜考察の例＞</p> <p>「幸福」→ 困難な条件を課すことで、得点することの喜びは増す。 「正義」→ 正々堂々と戦うためには、抜け駆けを禁止する必要がある。 「公正」→ 全ての競技者の「幸福」が図られなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で考える時間をとり、しばらくした後に意見を交換させる。 ・数名の生徒を指名して答えさせ、発言した内容を板書する。 ・オフサイドというルールがあって、サッカーの面白さが演出されていることに気付かせる。 ・オフサイドによって実現する「幸福、正義、公正」を、それぞれ想起させる。 	
	<p>では、フットサルにはなぜオフサイドがないのだろう。</p> <p>オフサイドのないサッカー(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フットサルにはオフサイドがない理由を考察する。 ：予想される答え →コートが狭いため適用しづらい等 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自に考えさせた後、数名の生徒を指名して答えさせる。 ・フットサルにおいては、オフサイドがないことで、より「幸福」が実現することに気付かせる。 	
まとめ 15分	<p>二つの競技のオフサイドに対する考え方から気付いたことをまとめよう。</p> <p>ルールの在るべき姿</p> <p>法とルール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールはどのように在るべきかについて考察し、ワークシートに記す。 ・ルールを法に置き換えて、法に関する基本的な見方や考え方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「幸福、正義、公正」の実現のためには、ルールの変更もあり得ることに気付かせる。 ・ワークシートを提出させる。 ・実社会においては、ルールの役割を法が担うことに触れ、改めて法の見方や考え方を確認する。 	◎

◎評価

〔評価の観点〕 思考・判断・表現 〔評価方法〕 ワークシート

〔評価規準〕 ルールの在り方について、「幸福、正義、公正」を用いて適切に述べている。

なぜ日本の森林は続いたのか
 —持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する授業—

(1) 学習指導要領の該当箇所（項目）とキーワード

「(3) 共に生きる社会を目指して」

- ・持続可能な社会の形成への参画
- ・科目のまとめとして課題を設定して行う学習
- ・現役世代と将来世代の関係
- ・日本史との関連付け

(2) ねらい

近世における日本の森林との向き合い方を例として、「現役世代の幸福と、将来世代の幸福の調和」について考察させ、持続可能な社会の形成に参画する意欲を高めさせる。〈考えをまとめる〉

(3) 指導計画

最初に図や統計資料を用いて、日本が先進国有数の森林大国であることを知らせる。しかし、過去において森林破壊の危機があったことを紹介し、特にその中の「近世の略奪」（16世紀後半～幕藩体制の確立期）と呼ばれる出来事を授業で取り上げることを伝え、展開へとつなげる。

なお、この授業の目標は、課題探究学習の前段階として、生徒に課題を設定させることである。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展開 35分	近世の略奪	<p>この頃（近世初頭）に森林が破壊されたのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近世の初頭において森林が破壊された理由を予想し、隣同士で意見を交換する。 ：予想される答え →城の資材、戦火で焼失等 	<ul style="list-style-type: none"> ・数名の生徒を指名し、予想した内容を答えさせる。理由として付け加える内容があれば知らせる。 「各大名にはじまり、豊臣秀吉や徳川家康に続く城郭の整備と造営、武器製造用の炭の大量生産等」 ・「留山（とめやま）」について説明する。 ・森林の利用制限による消極的管理であったことに気付かせる。 ・「部分林（ぶわけばやし）制度」や江戸時代に始まる民間林業について説明する。 ・植林事業が、現役世代の幸福と、将来世代の幸福の調和を図る視点に立っていたことに着目させる。 	
	森林再生に向けた取り組み(1) 森林再生に向けた取り組み(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・森林のもつ防災機能を理解し、次世代（主に寛文期：17世紀後半）が行った森林保護政策を知る。 ・現役世代（秀吉、家康ら）による木材の過剰な消費が、将来世代に負荷をかけたことに気付く。 ・近世後期に見られた積極的な植林事業について知る。 ・「持続可能な社会の形成」について理解する。 		
まとめ 10分	課題の設定 次時の予告	<p>現代社会において、このままでは将来世代に過度な負荷をかけてしまうという事例には何があるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の形成という視点から現代社会の課題を挙げ、ワークシートに記す。 ・次時より、設定した課題について探究活動を行うことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の学習内容を基に、将来世代の幸福が損なわれてしまうと考えた事柄を挙げさせる。 ・複数の課題を挙げた場合は、どれか一つに絞らせる。 ・課題ごとにグループをつくり、探究活動を行うことを伝える。 	◎

◎評価

〔評価の観点〕 関心・意欲・態度 〔評価方法〕 ワークシート

〔評価規準〕 持続可能な社会の形成という視点に立ち、妥当な現代社会の課題を挙げている。

倫理

古代ギリシアの哲学用語を和訳してみようー言語表現を通して思想の理解を深める授業ー

(1) 学習指導要領の該当箇所（項目）とキーワード

「(2) 人間としての在り方生き方 ア 人間としての自覚」

- ・先哲の思想
- ・倫理における「読むこと」「書くこと」
- ・論理的思考

(2) ねらい

古代ギリシアの哲学用語を和訳する活動を通して、哲学的な思考力及び表現力を身に付けさせる。
 <哲学用語を和訳する、発表する>

(3) 指導計画

ソクラテスの「無知の知」について、デルフォイの神託に関するエピソードを交えて復習し、授業の導入とする。展開部で行う哲学用語の和訳に関しては、その用語を意味する直接的な言葉を使うのではなく、遠回しな表現の中に含みをもたせるよう指示する。

授業のまとめめでは、優れた訳をその作成者に発表させ、教師による講評を簡潔に行いたい。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展開 35分	「フィロソフィア」のもつ意味	<p>なぜ「フィロソフィア」は、「哲学」と訳されたのだろうか。 ソクラテスのエピソードを参考にして、その理由を考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「フィロソフィア」の意味について考える。 ・「哲」の意味（…才知が優れていること）を知る。 ・「哲学」と訳した理由が、ソクラテスの教えに通ずるものであることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・西周が、「フィロソフィア（フィロ…愛、ソフィア…知）」を「哲学」と訳した理由を考えさせる。 ・改めてソクラテスの思想（「無知の知」を自覚した者こそが、真の知者である）を説明する。 	◎
	「アイデア」、「エロス」の和訳	<p>西周に倣い、次の哲学用語を日本語に訳してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラトンの思想を学んだ際に登場した用語（アイデアとエロス）を日本語に訳し、ワークシートに記す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や辞書を活用させ、自由に表現させる。 ・生徒の活動中に机間を廻り、発表させたい和訳の候補を選ぶ。 	

◎評価

〔評価の観点〕 思考・判断・表現 〔評価方法〕 ワークシート

〔評価規準〕 哲学的な根拠の基に「アイデア」と「エロス」を和訳し、その理由を記している。

資料1 ワークシートからの抜粋

◇ ステップ2

アイデアは、英語の「観念」を意味するアイデア (idea) の語源である。本来、アイデアは「見えているもの=姿」という意味であるが、定まった日本語はない。以上のことを踏まえて、アイデアに相応しい日本語訳を漢字2～3文字でつくり、合わせてその理由を記そう。

和訳 [例] 理存

理由 理想の世界における存在の意。「実存」主義とは逆の考え方。

◇ ステップ3

エロスは単に「愛」と訳されることが多いが、キリスト教や仏教における愛とは、本質的に異なる部分もある。資料集を参考にしてエロスに相応しい日本語訳を漢字2～3文字でつくり、合わせてその理由を記そう。

和訳 [例] 奪愛

理由 他から奪い求める愛の意。他者に与える「アガペー」とは逆の考え方。

(1) 学習指導要領の該当箇所（項目）とキーワード

「(3) 現代と倫理 ア 現代に生きる人間の倫理」

- ・イスラム（教）の特色
- ・異文化の理解
- ・他者と共に生きる主体

(2) ねらい

事例を通して異文化を理解することの重要性に気付かせ、合わせて他者と共に生きる自己の生き方について考察させる。＜グループで話し合う、発表する、考えをまとめる＞

(3) 指導計画

文化的摩擦の事例として、「イスラム・スカーフ事件」を取り上げる。導入として、以下に記した事件の概要を説明し、論点を整理しながら授業を展開していく。

1989年、パリ北部の中学校において、イスラム移民二世の女子生徒が、頭に被ったスカーフを教室では脱ぐよう校長から命じられたにもかかわらず、着用し続けたために、退学処分となる事件が起こった。この事件は「イスラム・スカーフ事件」として知れ渡り、世論を二分して論争が繰り広げられた。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展 開 25 分	ムスリム（イスラム教徒）の義務	<ul style="list-style-type: none"> ・五行が義務とされている根拠を考える。 ・クルアーン（コーラン）の教えに従って生きることが、イスラム（神への帰依）であることを改めて知る。 ・クルアーンの一節を聞き、ムスリム女性のスカーフ着用について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラムに関する既習事項を確認しながら発問する。 ・クルアーンにおいて、五行が規定されていることに気付かせる。 	
	スカーフの着用について	<ul style="list-style-type: none"> ・クルアーンの一節を聞き、ムスリム女性のスカーフ着用について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スカーフ着用の根拠とされているクルアーンの記事を読み上げる。 ・ムスリムの慣習が、信仰心の深さや人間理解に基づくものであることに気付かせたい。 	
	ライシテ（政教分離）とは	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスでライシテが成立した歴史的背景を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共和制の歴史と深い関わりがあること、信教の自由を妨げるものではないことを説明する。 	
ま と め 20 分	班別討論 ライシテと信教の自由	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1に基づいて、班ごとに討論する。 ・公的な場における「非宗教性」と、「信教の自由」との調和について考察し、ワークシートに記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1班の人数を6～7人とする。 ・グループ討論の後に、改めて両者（ライシテと信教の自由）の調和について、個々に考えさせる。 ・日本の学校において考えられる他の事例（給食における豚肉、女子生徒の体育服等）についても話題にする。 	◎

◎評価

〔評価の観点〕 思考・判断・表現 〔評価方法〕 ワークシート

〔評価基準〕 「非宗教性」と「信教の自由」との調和について、異文化を理解する視点に立ち、建設的な意見を述べている。

資料 1

「次に挙げる慣習を校内でも認めるべきか、若しくは認めることが難しいかについて、それぞれの班で話し合おう。」

- (A) 女生徒が校内でスカーフを着用する。
- (B) ラマダーン月に断食（サウム）を行う。
- (C) 正午と午後に、授業を抜けて礼拝（サラート）を行う。

政治・経済

明日から教室に防犯カメラを設置します—プライバシーの権利の考察を通して、法に関する基本的な見方や考え方を身に付けさせる授業—

(1) 学習指導要領の該当箇所（項目）とキーワード

「(1) 現代の政治 ア 民主政治の基本原則と日本国憲法」

- ・基本的人権の保障
- ・公共の福祉
- ・法の意義と機能

(2) ねらい

防犯カメラを学校に設置することの是非について話し合い、公共の福祉によるプライバシーの権利の制限について考察させる。＜グループで話し合う、発表する、考えをまとめる＞

(3) 指導計画

最初に、生徒自身がプライバシーと考える項目を、ワークシートに五つ記述させるところから授業を始める。記述後は、近くに座る生徒同士でワークシートを見せ合わせ、何をプライバシーとするかという基準が人によって異なることに気付かせたい。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
展 開 25 分			最近、街頭では、防犯カメラの設置数が増えているという。各自が挙げたプライバシーは、防犯カメラで侵害されるものかどうか考えよう。	
	防犯カメラとプライバシーの侵害	・五つのプライバシーは、防犯カメラにより侵害されるか否かを考える。	・数名の生徒を指名し、自身の考えを答えさせる。 ・防犯カメラに対する認識も、人により異なることに気付かせる。	
	防犯カメラの功罪	・防犯カメラを設置することの問題点を考察する。 ：予想される問題点 →映像の用途が不明、常に監視されているようで気味が悪い等 ・プライバシーの権利について、近年における考え方の変容を知る。 ・法令の趣旨を理解する。	・犯罪の抑止力としての「功」部分を生徒に確認した上で、問題点を考察させる。 ・数名の生徒を指名し、自身の考えを答えさせる。 ・自己情報コントロール権について説明する。 ・無条件のプライバシー保障ではないことを知らせる。	
	個人情報保護法			
			それでは、明日からこの教室に防犯カメラを設置することを提案したい。グループごとに話し合い、設置の是非について結論を出そう。	
	防犯カメラの教室設置の是非(1)	・グループにおいて、教室に防犯カメラを設置することの功罪をワークシートに列挙した上で、設置の是非を考察する。	・賛成する場合は付帯する条件を、反対する場合は防犯等に関する代替案を示すよう支持する。 ・話し合った結果については、各グループの代表者が発表することを伝える。	

ま と め 20 分	課題の発表	<ul style="list-style-type: none"> グループで話し合った内容を代表生徒が発表する。 防犯カメラの増設に関する世論を知る。 グループ討論の内容、他のグループの意見、世論を踏まえ、改めて防犯カメラを教室に設置することの是非について、自身の考えを述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡潔に発表させる。発表後には質疑の時間を設ける。 全てのグループの発表後に、新聞の切り抜きを資料として配付する。 自身の考えをワークシートに記述させ、提出させる。 	◎
	世論の紹介 防犯カメラの教室設置の是非(2)			

◎評価

〔評価の観点〕 思考・判断・表現 〔評価方法〕 ワークシート

〔評価規準〕 防犯カメラを教室に設置することの是非について、根拠を挙げて論じている。

最後に、高等学校学習指導要領地理歴史、公民における、改訂の基本的な考え方を示す。これまでに紹介した授業実践例も、これらの考え方を十分意識したものである。以下の内容を指針として、日々の授業改善を図りたい。

地理歴史

(1) 科目相互の関連の重視

世界史、日本史、地理相互の関連付けを図る。

(2) 課題を探究する学習を柱とする言語活動の充実

思考力・判断力・表現力等を育成する観点から、習得した知識、概念や技能を活用して、その内容を説明したり自分の考えを論述したりすることを通して、地理的事象や歴史的事象についての見方や考え方を成長させる。

(3) 地図や年表など様々な資料を活用した学習の一層の重視

地図とともに年表など、各種資料を含んだより広範な情報について、主体的に活用する学習活動を重視する。

公民

(1) 人間としての在り方生き方に関する学習の一層の充実

社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについての理解や、社会の一員として自己の生き方を探究することなどの充実を図る。

(2) 課題を探究する学習と言語活動の充実

習得した知識や概念、技能などを用いて、各科目でまとめとして諸課題を探究させる。その際、自分の考えを論述したり、分かりやすく内容を説明したりすることなど、言語活動の充実を図る。

(3) 法や金融、消費者に関する教育の充実

グローバル化や規制緩和の進展、司法の役割の増大等に対応して、法の意義や機能などに関する学習、消費者に関する学習を、「現代社会」や「政治・経済」において充実させる。

(4) 伝統や文化、宗教に関する教育の充実

教育基本法の改正などを踏まえて、伝統や文化について各科目で指導の充実を図る。例えば、国際関係の学習において、文化や宗教の多様性について扱う。

IV 評価について

IV-1 観点別評価の在り方

評定中心の評価は、生徒の学習状況を総括的に把握することはできるが、習得した学力の状況を構造的に捉えることはできない。高等学校においても、観点別評価を通じて生徒の学習状況を分析的に捉え、個に応じた指導の充実を図るなど、授業の改善につなげたい。

(1) 学習評価の基本的な考え方

文部科学省は、学習評価の改善に関する基本的な考え方を以下のように示している。

- ◇ 目標に準拠した評価を着実に実施する。
- ◇ 新学習指導要領の趣旨等を適切に反映する。
- ◇ 学校や設置者の創意工夫を一層生かす。

上記の考え方を基に、高等学校では評価に際して次の点に心がけたい。

- ① 学力の三要素を念頭に置き、生徒の実態に即した目標を学校ごとに定める。
- ② 目標の実現状況を的確に捉えるために観点別評価を行う。

(2) 学習評価における観点

学力の三要素と評価の観点との関係は以下のとおりである。

学力の三要素	評価の観点
○ 基礎的・基本的な知識・技能	知識・理解 及び 技能
○ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等	思考・判断・表現
○ 主体的に学習に取り組む態度	関心・意欲・態度

- ・「技能」は、地理歴史科・公民科では「資料活用の技能」とされる。各種の資料を効果的に活用し、必要な情報をまとめている力を評価する観点である。「どのように資料を読み取り」「どんな資料を集め」「どのように整理してまとめているか」が評価の中心となる。
- ・「思考・判断・表現」は、思考・判断したことについて、説明、論述、討論などの言語活動等を通じて表現されたものを評価する観点である。
- ・「関心・意欲・態度」の観点については、表面的な状況のみに着目しないよう留意し、ある程度長い区切りの中で、適切な頻度で評価する。

(3) 評価の進め方

以下は評価の手順を例示したものである。

- ① 単元または題材の目標を設定する。
… 学習指導要領の目標と内容、生徒の実態等を踏まえる。
- ② 評価規準を設定する。
… 目標に対して「おおむね満足できる」状況を観点ごとに設定する。
- ③ 評価規準を「指導と評価の計画」に位置付ける。
… 設定した評価規準と評価方法を指導計画に位置付ける（7ページの⑤を参照）。
- ④ 評価結果のうち「記録に残す場面」を明確にする。
- ⑤ 授業実施後、観点ごとに総括する。
… 評価結果等を基礎資料として、観点ごとの総括的評価〔A～C〕を記録する。

◇ 評価規準

設定した目標について、生徒がどのような学習状況を実現すればよいのかを具体的に想定したもの。「～できる」「～している」のように示す。

なお、②で設定した単元等の評価規準を基に、各次程（第一次、第二次等）の評価規準（具体的で簡潔なもの）を設定する。

◇ 評価方法

ア 観察、生徒との対話等（… 授業中の評価）

イ ノート、ワークシート、作品、レポート、ペーパーテスト等（… 授業後の評価）

アの方法は、生徒の反応に応じて直ちに指導に生かすためのものである。一方、イの方法は主に授業後の評価として、単元や学期末及び学年末における総括の際の資料として利用できるものである。

なお、記録に残す評価結果は、A（「十分満足できる」状況）、B（「おおむね満足できる」状況）、C（「努力を要する」状況）で表す。「十分満足できる」状況とは、「おおむね満足できる」状況のうち、質的な高まりや深まりをもっているとは判断されるものである。

また、評価の観点ごとの総括（単元、学期末、学年末）については、「評価結果のA、B、Cの数」で総括する方法（最も数の多い評価結果で表す）や、「評価結果のA、B、Cを数値に表す」方法（A、B、Cを数値化し、合計または平均した結果を再度A、B、Cで表す）がある。

(4) 留意事項

① 効果的・効率的な評価

- ・ 1時間の授業の中で4観点の全てについて評価規準を設定する必要はない。
- ・ 1時間の授業の中で「記録に残す場面」を過度に設定しない。

② 偏りのない評価

- ・ ペーパーテストによる評価のみに偏ることのないよう留意する。また、ペーパーテストにおいても、「知識・理解」の観点に偏ることのないようにする。
- ・ 評価が学期末などに偏ることのないよう留意する。

③ 観点別学習状況の評価の評定への総括

- ・ 観点別学習状況の評価を評定の基本的な要素とする。
- ・ 各学校で評定への総括等の考え方や方法について共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得る。

→詳細については、国立教育政策研究所教育課程研究センターによる「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 地理歴史】または【高等学校 公民】」の20ページを参照する。

④ 指導と評価の工夫改善

- ・ 学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結び付ける（「指導と評価の一体化」）。
- ・ 指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定し、評価方法を工夫する。評価方法については、評価の観点で示される資質や能力等を評価するのにふさわしい方法を選択する（「学習評価の妥当性、信頼性」）。また、評価規準と対応するように評価方法を準備することにより、評価方法の妥当性、信頼性は高まる。

IV-2 評価問題例

幾つかの科目について、「思考・判断・表現」や「資料活用の技能」の観点に立つ評価問題例を紹介する。ペーパーテストにおいても、「知識・理解」に偏ることのない出題を心がけたい。

世界史A 「思考・判断・表現」

問 ルネサンス、宗教改革、大航海時代は、後のヨーロッパに大きな影響を与えた同時代の出来事である。それぞれ文化的・宗教的・経済的に意味をもつものだが、どの出来事が最も後世に影響を与えたと考えるか。他の出来事と比較して重要な順に、具体的事例を挙げながら、1位～3位まで順位を付けなさい。

順位	出来事	そのように思う理由
1位		
2位		
3位		

<解答例>

1位 ルネサンス、 2位 大航海時代、 3位 宗教改革

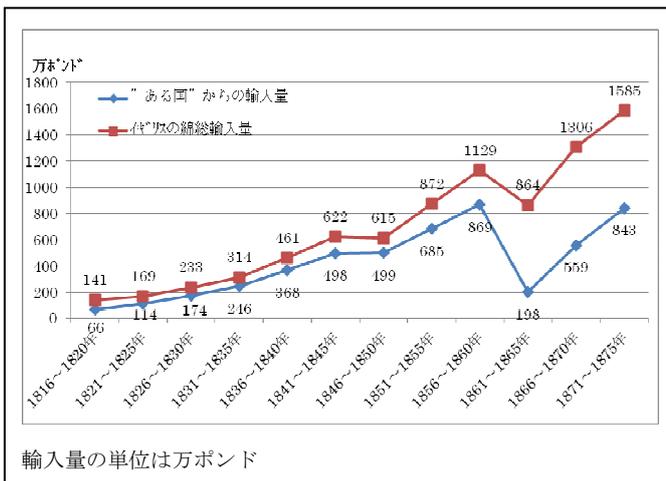
[理由] ルネサンスの3大改良の一つである羅針盤が無ければ、大航海時代は訪れなかったかもしれないし、同じく活版印刷が無ければ宗教改革が起こらなかったかもしれないから。また、宗教改革が世界に拡大したのは、大航海時代による航路の開拓があったから。

<評価規準>

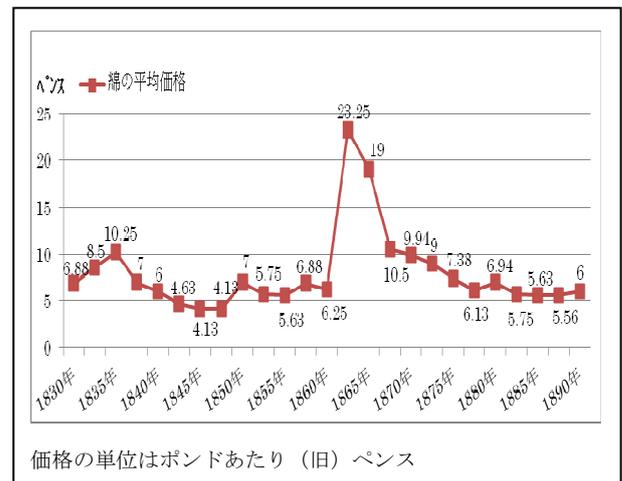
歴史的知識を根拠に三つの出来事と比較し、妥当な順位を付けている。

世界史B 「資料活用の技能」

① イギリスの綿花輸入量



② 世界市場における綿花の平均価格



問1 ①のグラフ中の「ある国」を答え、また、そう判断した理由を答えなさい。

問2 綿花の栽培に力を入れたエジプトの総督イスマイルが、1861年に綿繰機を購入したことは、その後のエジプトにどのような影響を及ぼしたか。②のグラフを参考に考えを述べなさい。

<解答例>

問1 アメリカである。当時、綿花最大の生産国であったアメリカにおいて南北戦争が勃発したことで、イギリスへの綿花の輸出が途絶えたからである。

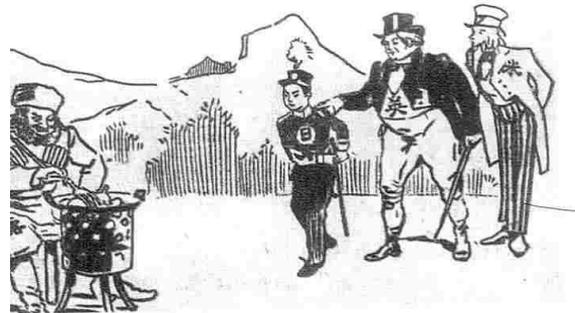
問2 綿花の価格の急落による財政難から、エジプトはスエズ運河会社株を売却し、その後のイギリスによる保護国化を招くことになる。

<評価規準：問2のみ>

問2 グラフを的確に読み取り、その後の歴史的事実と結び付けて考えを述べている。

日本史A 「思考・判断・表現」

右の風刺画は、20世紀初頭のある国際状況を外国人の視点から描いたものである。その国際状況に関する以下の問いに答えなさい。



問1 風刺画には、左端のロシア人が栗を煎っている姿が描かれている。この栗が何を表しているのかを答えなさい。

<解答例> 満州・朝鮮。

問2 風刺画の中央にいる日本人の描かれ方を見て、当時の日本を取り巻く国際状況や、日本の国際的地位について述べなさい。

『中央新聞』6672号(明治36年10月13日)「火中の栗」
東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵

<解答例>

例1 日本は、軍装をした少年の姿で描かれている。これは、日英同盟を結んだイギリスが、ロシアの南下政策に対抗する目的で、日本の軍事的力を利用していることを表したものである。

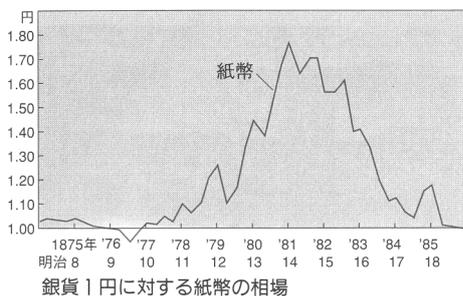
例2 日本は、少年の姿で描かれている。これは、大国である欧米列強に比べ、日本が依然として発展途上の小国の扱いであったことを表したものである。

<評価規準>

歴史的事象を根拠として著者の意図を読み取り、適切に説明している。

現代社会 「思考・判断・表現」

次のグラフと説明文に関する下記の問いに答えなさい。



明治時代は「銀貨」と「紙幣」とが別々に発行されていた。その結果、左のグラフのように紙幣の価格に変動が見られるようになった。すなわち、市場原理によって「紙幣」の価格が変動していると考えることができる。

問 1881年から1885年にかけて見られる紙幣価格の変動について、この時期にどのような経済現象が起きたと言えるか。理由を含めて、35字以内で答えなさい。

『集英社版 日本の歴史(17) 日本近代の出発』
(佐々木克著, 集英社, 平成4年)より転載引用

<解答例>

銀貨に対する紙幣の価格が下落しており、デフレーションが起きたと言える。(35字)

<評価規準>

経済用語の概念の正確な理解に基づいてグラフを読み取り、現象を適切に説明している。

倫理 「思考・判断・表現」

○ 次に記すF. ベーコン著『ノヴム・オルガヌム』の一節を読み、下記の問いに答えなさい。

(A) 「種族のイドラ」は人間の本性そのもののうちに、そして人間の種族すなわち人類のうちに根ざしている。……感官のそれも精神のそれも一切の知覚は、人間に引き合わせてのことであって、宇宙(事物)から見てのことではない。そして人間の知性は、いわば事物の光線に対して平らでない鏡のごときである。

(B) 「洞窟のイドラ」とは人間個人のイドラである。というのも、各人は(一般的な人間本性の誤りのほかに)洞窟、すなわち自然の光を遮り損なう或る個人的なあなを持っている。

またいわば人類相互の交わりおよび社会生活から生ずる「イドラ」もあり、これを我々は人間の交渉および交際のゆえに、(C) 「市場のイドラ」と称する……言葉はたしかに知性に無理を加えずべてを混乱させる、そして人々を空虚で数知れぬ論争や虚構へと連れ去るのである。

最後に、哲学のさまざまな教説ならびに論証の誤った諸規則からも、人間の心に入り込んだ「イドラ」があり、これを我々は(D) 「劇場のイドラ」と名付ける。

[桂寿一訳『ノヴム・オルガヌム-新機関』岩波書店、昭和53年]

問 次の各文に当てはまるイドラを上記(A)～(D)より選び、符号で記しなさい。

- (1) 新聞の報道を全て正しいと信じる。
- (2) 日食の時に、太陽が欠けているかのように見える。
- (3) 井の中の蛙大海を知らず。
- (4) 他人のうわさに惑わされ、間違った行動をとる。

<解答> (1) - (D), (2) - (A), (3) - (B), (4) - (C)

○ 次に記すニーチェ著『アンティクリスト』の一節を読み、下記の問いに答えなさい。

キリスト教は同情の宗教と呼ばれる。同情とは、生命感情のエネルギーを高めるような強壯剂的激情とは正反対をなすものであり、人の心を抑圧するように作用するものである。同情すれば、誰しも力を失う。……同情は没落しかかっているものを保存する。生の廢嫡者、生の犯罪人のために防戦する。同情はありとあらゆる種類の出来損ない的人間を生の中に引き留め、そうした人間を夥しく地上に溢れさすことによって、生そのものに陰惨でいかがわしい表情を与える。人びとは、こうした同情を敢えて徳と呼んで来たのだ。

[西尾幹二、生野幸吉訳『アンティクリスト』(『ニーチェ全集 第2期第4巻 偶像の黄昏/遺された著作1888-89年』)白水社、昭和62年]

問1 上記の文章を60字以内で要約しなさい。

問2 上記の文章に対し、キリスト教の本質を表す言葉を必ず用いて、60字以内で反論しなさい。

<解答例>

問1 キリスト教における徳の本質は同情であり、それは人々の心を抑圧し、強く生きようとする意志を弱めてしまうものである。(56字)

問2 キリスト教における徳の本質は愛であり、それは人々の心を抑圧するものではなく、神への信仰を通して希望を与えるものである。(59字)

<評価規準：問2のみ>

問2 「愛」という言葉を用いて、引用文に対する妥当な反論をしている。

V 参考文献

はじめに

『月刊教職研修2013年1月号』教育開発研究所,平成24年。「大学入学者選抜の改善をはじめとする高等学校教育と大学教育の円滑な接続と連携の強化のための方策について」平成24年8月28日 文部科学大臣諮問。

I 地理歴史科・公民科の授業が目指すもの

I-1 授業改善の方向性

日本学術会議提言「新しい高校地理・歴史教育の創造ーグローバル化に対応した時空間認識の育成ー」平成23年。

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t130-2.pdf>)

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』平成22年。文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』平成22年。国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価標準の作成,評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 地理歴史】』平成24年。国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価標準の作成,評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 公民】』平成24年。

I-2 各教科・科目で身に付けさせたい力

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』平成22年。文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』平成22年。富所隆治『アメリカの歴史教科書ー全米基準の価値体系とは何か(社会科教育全書38)』明治図書,平成10年。鳥山孟郎『考える力を伸ばす世界史の授業』青木書店,平成15年。鳥山孟郎『授業が変わる 世界史教育法』青木書店,平成20年。寺本潔『社会科の基礎・基本 地図の学力』明治図書,平成14年。日本地理教育学会編『地理教育用語技能事典』帝国書院,平成18年。「地理学的な見方・考え方とは?」(国士舘大学文学部地理・環境専攻パンフレット第四版 http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/Pamphlet/Pamph_4.pdf)

II 授業プランニング

II-1 年間指導計画の作成

※年間指導計画の記入例(「現代社会」版)については、「平成24年度県立高等学校教育課程課題研究 総則研究班」作成の「日本史A」を参考に作成した。

II-2 学習指導案の作成

辰野千壽編『第三版 学習指導用語事典』教育出版,平成21年。横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版,平成2年。愛知県総合教育センター「授業の手引き(高等学校地理歴史科・公民科 平成15年度版)」平成16年。

(<http://www.apec.aichi-c.ed.jp/shoko/kyouka/chireki-tebiki/15guide.htm>)

神奈川県立総合教育センター「高等学校版授業改善のための授業分析ガイドブック」平成20年。

(<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/jyugyo-kaizen-bunseki-gaido.pdf>)

III 思考力等の育成に向けた授業づくりの視点

III-1 言語活動の充実

中央教育審議会「幼稚園,小学校,中学校,高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」平成20年。文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』平成22年。文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集ー思考力,判断力,表現力等の育成に向けてー【高等学校版】」平成24年。岩田一彦・米田豊編『「言語力」をつける社会科授業モデル 中学校編』明治図書,平成21年。田中孝一「言語活動の充実と教育改革」(内外教育2013年1月29日,第6221号)時事通信社,平成25年。中尾敏朗「言語活動の充実に関する指導事例集の刊行」(文部科学省『中等教育資料』平成24年6月号)学事出版,平成24年。中尾敏朗「言語活動の充実が図られる背景」(文部科学省『中等教育資料』平成24年11月号)学事出版,平成24年。『月刊教職研修2013年1月号』教育開発研究所,平成24年。

Ⅲ-2 主題学習・課題探究学習とは

沖縄県立総合教育センター『『世界史B』における主題学習の再生をめざしてー『近代国民国家の形成と民族問題』の試みー』平成11年。(http://www.edu-c.open.ed.jp/kyouka/chyousak/zennedo/11html/11html/kenkyukiyo3.pdf)
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』平成22年。文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』平成22年。愛知県総合教育センター「授業の手引き (高等学校地理歴史科・公民科 平成15年度版)」平成16年。文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力, 判断力, 表現力等の育成に向けて～【高等学校版】」平成24年。清水勲『ビゴーが見た日本人』講談社, 平成13年。Z会出版編集部『段階式 日本史論述のトレーニング』Z会出版, 平成17年。橋本健一「ワークシート教材を用いた授業の展開ー理科教育での授業を例としてー」(『千葉県立衛生短期大学紀要25巻2号』) 平成19年。(http://ci.nii.ac.jp/naid/110006424847)

Ⅲ-3 日常の授業における思考力等の育成

森分孝治『社会科教育全書7 社会科授業構成の理論と方法』明治図書, 昭和53年。上條晴夫・江間史明編『ワークシ
ョップ型授業で社会科が変わる 中学校 <参加・体験>で学びを深める授業プラン17』図書文化社, 平成17年。独立行政
法人教員研修センター『教員研修の手引き 研修の効果的な運営のための知識・技術=2訂版=』平成22年。歴史
学研究会編『日本史史料(5) 現代』岩波書店, 平成9年。松尾尊允編『石橋湛山評論集』岩波書店, 昭和59年。
「N I E 教育に新聞を」(http://nie.jp/) 「マインドマップとは」(http://mindmap.jp/000093.htm)
【「マインドマップの基礎知識」マインドマップの書き方をマスターできるオススメサイトまとめ】
(http://matome.naver.jp/odai/2129517245843627301)

Ⅲ-4 授業実践例

<ナイルの恵み> 大貫良夫他著『世界の歴史1 人類の起源と古代オリエント』中央公論社, 平成10年。

<ペリーが「日本国民」をつくった?>

チャールズ・マックファーレン/渡辺惣樹訳『日本1852 ペリー遠征計画の基礎』草思社, 平成22年。

<大統領, 聞いていただけますか?> 浅沼茂編『「活用型」学習をどう進めるか』教育開発研究所, 平成20年。

<ゴッホが描いた浮世絵> 浮世絵ぎゃらりい (http://ukiyoe.wafusozai.com/archives/29)

<一向一揆が守ったもの> 神田千里『戦争の日本史14 一向一揆と石山合戦』吉川弘文館, 平成19年。藤三郎『野
田御書』と『二十一人討死』の伝承 前編(福山琢磨編『大阪春秋(季刊)』) 新風書房, 平成20年。笠原一男, 井上鋭
夫校注『蓮如 一向一揆 日本思想体系17』岩波書店, 昭和47年。鍛代敏雄『中世後期の寺社と経済 思文閣史学叢書』
思文閣出版, 平成11年。水本邦彦「畿内寺内町の形成と展開について」(峰岸純夫編『戦国大名論集13 本願寺・一向
一揆の研究』) 吉川弘文館, 昭和59年。

<学校が危ない> 「特集 地震災害に立ち向かう地理教育」(『地理2009年2月号』) 古今書院, 平成21年。電子国土ポ
ータル(http://portal.cyberjapan.jp/index.html) 北緯35度5分26.8秒, 統計137度10分13.2秒, 縮尺1/9000地形図。
愛知県防災学習システム (http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/) 豊田市洪水ハザードマップ (高橋地区)
(http://www.city.toyota.aichi.jp/division/ad00/ad03/1237738/03takahashi.pdf)

国土地理院発行25000分の1地形図 豊田北部 (昭和53年, 平成22年), 豊田南部 (昭和54年, 平成22年)。

<共通点を見付けよう> FAOSTAT (国連食糧農業機関統計データベース http://faostat.fao.org/default.aspx)
ドン・ベルト「沈む国土に生きる」(『ナショナルジオグラフィック日本版 2011年5月号』) 日経ナショナルジオグラ
フィック社, 平成23年。岡太郎「バングラデシュの洪水災害」(『京都大学防災研究所年報 第47号A』) 平成16年4月。
財団法人日本エネルギー経済研究所「地球温暖化対策関連データ等に関する調査」平成17年3月。松田浩敬他「バン
グラデシュにおけるエビー稲作複合作が農村の生活水準に与える影響ー食料摂取の観点から: Khulna District

Bilpabra を事例にー」（『北海道大学農経論叢61』）北海道大学大学院農学研究科，平成17年。

<地域区分について> 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』平成22年。国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 地理歴史】』平成24年。

日本地理教育学会編『地理教育用語技能事典』帝国書院，平成18年。

<ウェブ上の地理教材について> 伊藤智章『いとちり式 地理の授業にGIS』古今書院，平成22年。

<オフサイドのないサッカーはどうか> 大村敦志『ルールはなぜあるのだらうスポーツから法を考えるー』岩波書店，平成20年。大村敦志・土井真一編『法教育のめざすものーその実践に向けてー』商事法務，平成21年。大村敦志『「法と教育」序説』商事法務，平成22年。大村敦志『父と娘の法入門』岩波書店，平成17年。

<なぜ日本の森林は続いたのか> 宮崎安貞・貝原楽軒／土屋喬男校訂『農業全書』岩波書店，平成15年。コンラッド・タットマン／熊崎実訳『日本人はどのように森をつくってきたのか』築地書館，平成10年。鬼頭宏『日本の歴史第19巻 文明としての江戸システム』講談社，平成14年。速見融編『歴史のなかの江戸時代』藤原書店，平成23年。

<古代ギリシアの哲学用語を和訳してみよう> 佐藤康邦『哲学への誘い』放送大学教育振興会，平成20年。プラトン／久保勉訳『饗宴』（改版）岩波書店，平成20年。

<学校でスカーフを禁止できる？> 三浦信孝『普遍性か差異かー共和制の臨界、フランスー』藤原書店，平成13年。西野正巳編訳『イスラム世界の人生相談ーニュースの裏側がよくわかる』太陽出版，平成18年。

<明日から教室に防犯カメラを設置します>

※授業では、「2011年（平成23年）2月19日（土）中日新聞夕刊1面」からの切り抜き（「防犯カメラに“にらみ”を」）を資料として配付する。

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』平成22年。文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』平成22年。田尻信壹，中尾敏朗，吉開潔「解説／各教科等の展望 地理歴史」（文部科学省『中等教育資料』平成21年5月号）学事出版，平成21年。大倉泰裕，谷田増幸「解説／各教科等の展望 公民」（文部科学省『中等教育資料』平成21年5月号）学事出版，平成21年。田尻信壹，中尾敏朗，濱野清「高等学校新学習指導要領の全面実施に向けて『解説』全面実施に向けた各教科等の実践課題 地理歴史」（文部科学省『中等教育資料』平成24年4月号）学事出版，平成24年。

IV 評価について

IV-1 観点別評価の在り方

国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 地理歴史】』平成24年。国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 公民】』平成24年。

IV-2 評価問題例

※<世界史A>は参考文献なし

<世界史B> タミム・アンサーリー／小沢千重子訳『イスラームからみた「世界史」』紀伊國屋書店，平成23年。ブライアン・R・ミッチェル編／北村甫監訳『マクミラン新編世界歴史統計(2) アジア・アフリカ・大洋州歴史統計 1750～1993』東洋書林，平成14年。

<日本史A> Z会出版編集部『段階式 日本史論述のトレーニング』Z会出版，平成17年。「火中の栗」（『中央新聞』6672号 明治36年10月13日）東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫所蔵。

<現代社会> 佐々木克『集英社版 日本の歴史（17）日本近代の出発』集英社，平成4年。

<倫理> ベーコン／桂寿一訳『ノヴム・オルガヌムー新機関』岩波書店，昭和53年。ニーチェ／西尾幹二，生野幸吉訳『ニーチェ全集 第2期4巻 偶像の黄昏／遺された著作（1888-89年）』白水社，昭和62年。